

平成 30 年度 第 1 回

高知市高齢者保健福祉計画推進協議会

資料

日時 : 平成 30 年 10 月 29 日(月) 18:30~20:30

場所 : 総合あんしんセンター 3階 大会議室

目 次

ページ

高知市高齢者保健福祉計画推進協議会委員名簿	1
高知市高齢者保健福祉計画推進協議会条例	2
報告事項	
1. 地域福祉に関する市民アンケート調査結果	5
2. 在宅医療・介護連携推進事業	31
3. 事業所の職場環境の改善への取り組み	43
4. 地域密着型サービスの整備状況	51
5. 高齢者支援センターの再編・強化	53
参考資料:	
1. 高知市高齢者保健福祉計画(平成 27～29 年度)重点施策の結果	55
2. 第6期における介護給付事業の実績	59
＜別紙資料＞	
資料1 高知市高齢者支援センター再編・強化	

高齢者保健福祉計画推進協議会 委員名簿

任期:平成 29 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日

	所属	役職等	委員氏名
1	高知県ホームヘルパー連絡協議会	副会長	川田 麻衣子
2	高知市民生委員児童委員協議会連合会	副会長	北岡 廣明
3	公益社団法人認知症の人と家族の会 高知県支部	世話人代表	佐藤 政子
4	高知市居宅介護支援事業所協議会	会長	神明 泰子
5	一般社団法人 高知市歯科医師会	副会長	高橋 豊
6	公益社団法人 高知県薬剤師会	副会長(高知市 薬剤師会会長)	寺尾 智恵美
7	高知県医療ソーシャルワーカー協会	会長	中本 雅彦
8	NPO 法人高知市身体障害者連合会	会長	中屋 圭二
9	高知市老人クラブ連合会	会長	西村 和彦
10	公募委員		福島 由紀
11	高知県老人福祉施設協議会	副会長	福田 晃代
12	公益社団法人 高知市シルバー人材センター	事務局長	藤原 好幸
13	公募委員		堀川 武志
14	社会福祉法人高知市社会福祉協議会	常務理事兼 事務局長	舩田 郁男
15	公募委員		松村 謙治
16	公益社団法人高知県理学療法士協会	代表理事(会長)	宮本 謙三
17	国立大学法人 高知大学	教授	安田 誠史
18	一般社団法人 高知県作業療法士会	理事(事務局長)	矢野 勇介
19	公募委員		山根 喜美子
20	一般社団法人高知市医師会	理事	山村 栄一

●高知市高齢者保健福祉計画推進協議会条例

(平成 27 年 4 月 1 日条例第 47 号)

(設置)

第1条 高知市高齢者保健福祉計画(以下「高齢者保健福祉計画」という。)及び高知市介護保険事業計画(以下「介護保険計画」という。)の策定及び推進等に当たり、広範な市民の意見を反映するため、高知市高齢者保健福祉計画推進協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 高齢者保健福祉計画及び介護保険計画の策定に関すること。
- (2) 高齢者保健福祉計画及び介護保険計画に基づく諸施策の進捗状況に関すること。
- (3) 高齢者保健福祉計画及び介護保険計画の推進の方策に関すること。
- (4) 高齢者保健福祉計画及び介護保険計画の見直しに関すること。
- (5) 高齢者保健福祉計画と介護保険計画との調和に関すること。
- (6) その他高齢者保健福祉計画及び介護保険計画の推進に関すること。

(組織)

第3条 協議会は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する委員20人以内で組織する。

- (1) 学識経験者
 - (2) 関係団体の役職員
 - (3) 市民
 - (4) その他市長が特に必要と認める者
- 2 前項第3号の委員は、公募によるものとし、その選考に当たっては、高知市高齢者保健福祉計画推進協議会公募委員選考委員会(以下「選考委員会」という。)において審査する。
- 3 委員の公募の実施並びに選考委員会の組織及び運営について必要な事項は、市長が別に定める。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、3年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を行う。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

(資料提供その他の協力等)

第7条 協議会は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、関係部局その他の者に対し、資料の提出、意見の表明、説明その他必要な協力を求めることができる。

(守秘義務)

第8条 委員は、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(専門部会)

第9条 協議会の所掌事項について専門的に協議する必要があるときは、協議会に専門部会を置くことができる。

2 専門部会の組織及び運営について必要な事項は、市長が別に定める。

(庶務)

第10条 協議会の庶務は、健康福祉部において処理する。

(その他)

第11条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

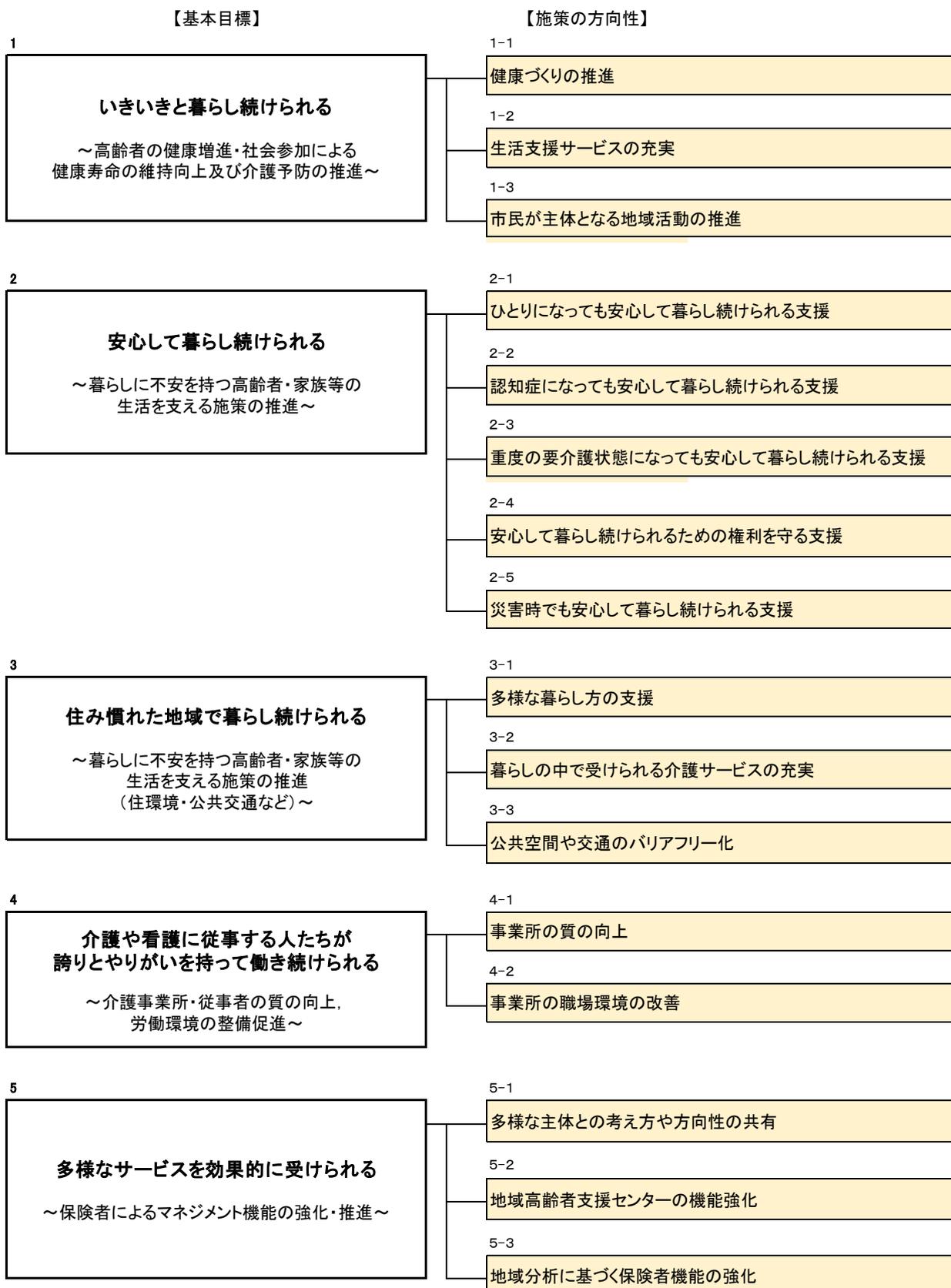
(経過措置)

2 この条例の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において置かれていた高知市高齢者保健福祉計画推進協議会(高知市高齢者保健福祉計画推進協議会設置要綱(平成6年7月26日制定)の規定に基づき組織されたものをいう。以下「旧協議会」という。)は、協議会となり、同一性をもって存続するものとする。

3 この条例の施行の際現に旧協議会の委員として市長から委嘱されている者及び旧協議会の会長又は副会長に選任されている者は、施行日において協議会の委員に委嘱され、又は会長若しくは副会長に選任されたものとみなす。ただし、その任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、旧協議会の委員並びに会長及び副会長としての残任期間に相当する期間とする。

●高齢者保健福祉計画の施策体系

基本理念 : 『 ちいきぐるみの支え合いづくり 』



1. 地域福祉に関する市民アンケート 調査結果

地域福祉に関する市民アンケート調査の 結果について

1 地域福祉に関する調査の概要

1 地域福祉に関する調査の概要

(1) 目的

第2期地域福祉活動推進計画策定にあたり、地域福祉に関する市民の意向やニーズを把握するための基礎資料とする。

(2) 調査対象

高知市に住民票のある20歳以上の方 3,000人(平成30年5月1日時点)

※以下の地区別の人口に応じて無作為に抽出

上街・高知街・南街・北街・下知・江ノ口・小高坂・旭街・潮江・三里・五台山・高須・布師田・一宮・秦・初月・朝倉・鴨田・長浜・御畳瀬・浦戸・大津・介良・鏡・土佐山・春野

(3) 調査期間 平成30年6月

(4) 調査方法 郵送

(5) 回収

調査対象	平成24年度	平成27年度	平成30年度
①高知市に住民票のある20歳以上の方 (平成30年5月1日時点)	1,854/ 4,000人 【46.4%】	/	1,345/ 3,000人 【44.8%】

2

1 地域福祉に関する調査の概要

(6) 市民対象調査項目(31問+自由記載)

1. 回答者の属性について(性別・年齢・居住地区・職業・居住年数・住居形態・家族構成)		
2.同居家族	10.手助けしてほしい具体的な内容	18.今後参加したい活動の内容
3.暮らし向き(経済)	11.自身の悩み・不安について	19.活動を阻害する要因
4.助け合いの範囲	12.相談相手	20.参加したい地域の集いの場
5.近所付き合いの程度	13.地域の生活課題について	21.福祉目的の寄付経験の有無
6.地域での助け合いの現状	14.地域活動・ボランティア活動への参加の有無	22.福祉目的の寄付に対する考え
7.住民同士の助け合いの必要性	15.参加している活動の内容	23.高知市社会福祉協議会の周知度
8.助け合いの意識	16.活動に参加したきっかけ	24.地区社会福祉協議会の周知度
9.手助けできる具体的な内容	17.今後の活動意向	25.生活支援相談センターの周知度

①指標結果【全体目標 指標】

調査実施項目	設問内容	回答内容等	H24 結果	H30 結果	指標 (H30割合)	備考
地域の活動やボランティア活動への参加	あなたは地域の活動やボランティア活動へ参加していますか。	「参加している」人の割合	17.2%	16.8%	50.0%	全体目標指標
地区社協の周知度	住民一人ひとりが社会福祉に参加し、生活上のいろいろな問題や課題について話し合い、地域の中の助け合いを育てていくための組織として「地区社会福祉協議会」があります。あなたはこの組織を知っていますか。	「名前も活動の中身も良く知っている」「名前は知っており活動内容も少しは知っている」と答えた人の割合		21.6%	50.0%	全体目標指標

②指標結果【基本目標 指標】

調査実施項目	設問内容	回答内容等	H24 結果	H30 結果	指標 (H30割合)	備考
地域での助け合いの現状	【市民】 あなたのお住いの地域では、お互いに助け合いができていますか。	「大変そう思う」「そう思う」と答えた人の割合	40.5%	26.9%	50.0%	基本目標2指標
	【民生委員】 あなたの担当区域の住民は、お互いに助け合いができていますか。		46.1%	61.2%	60.0%	
住民同士の助け合いの必要性	【市民】 あなたは地域で生じているさまざまな福祉分野の生活課題（障害のある人・高齢者の生活、子育て、健康づくりに関する問題など）に対し、地域住民が自主的にお互いに支え合い、助け合う関係が必要だと思いますか。	「必要だと思う」「あった方がよい」と答えた人の割合	88.6%	80.9%	95.0%	基本目標1指標
今後の地域活動への意向	【市民】 あなたは今後、地域の活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。	「ぜひ参加したい」「友人などが一緒なら参加したい」「時間ができたら参加したい」「学習の機会があったら参加したい」と答えた人の割合（H30「現在している活動を継続したい」を含む）	69.6%	43.1%	80.0%	基本目標1指標
市社協の周知度	【市民】 【民生委員】 地域福祉を推進し、住民主体の地域福祉活動のお手伝いをする団体に、「高知市社会福祉協議会」があります。あなたはこの組織を知っていますか。	「名前も活動の中身も良く知っている」「名前は知っており活動内容も少しは知っている」と答えた人の割合	17.6%	21.6%	50.0%	基本目標5指標
			87.7%	91.6%	100.0%	

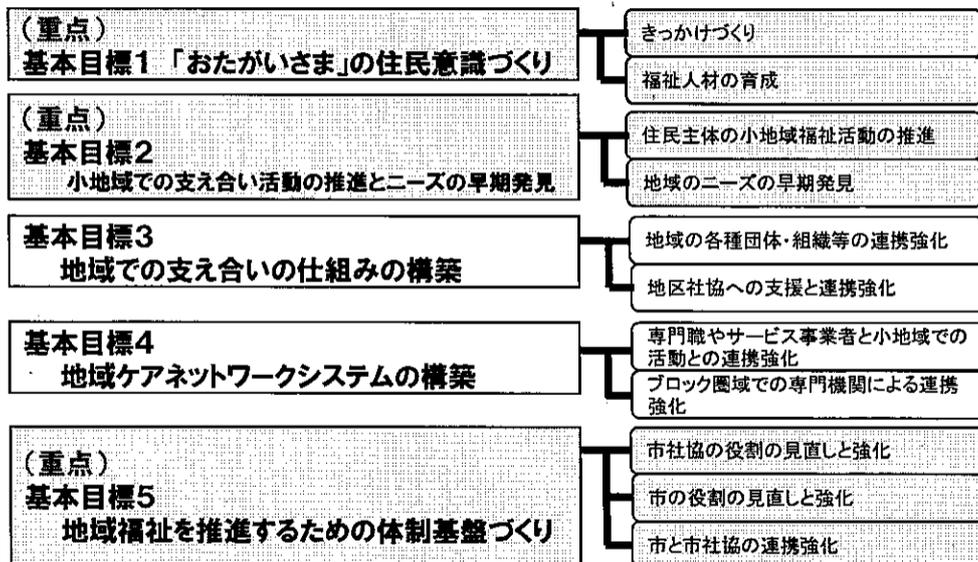
4

<参考>

高知市地域福祉活動推進計画

基本理念

「誰もが安心して暮らせる支え合いのあるまちづくり」



2 市民対象調査結果(抜粋)

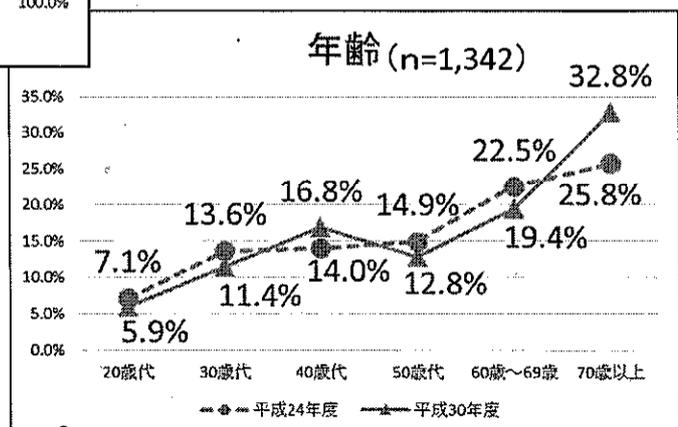
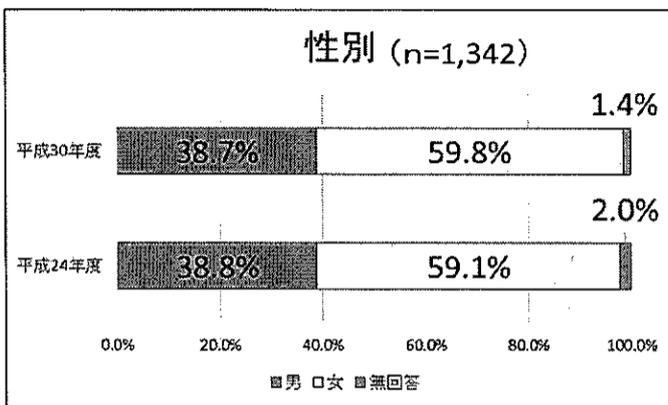
6

2 市民対象調査 結果詳細

【性別】【年齢】

【性別】は男性が約4割，女性が約6割と平成24年度と平成30年度では同様の傾向であった。

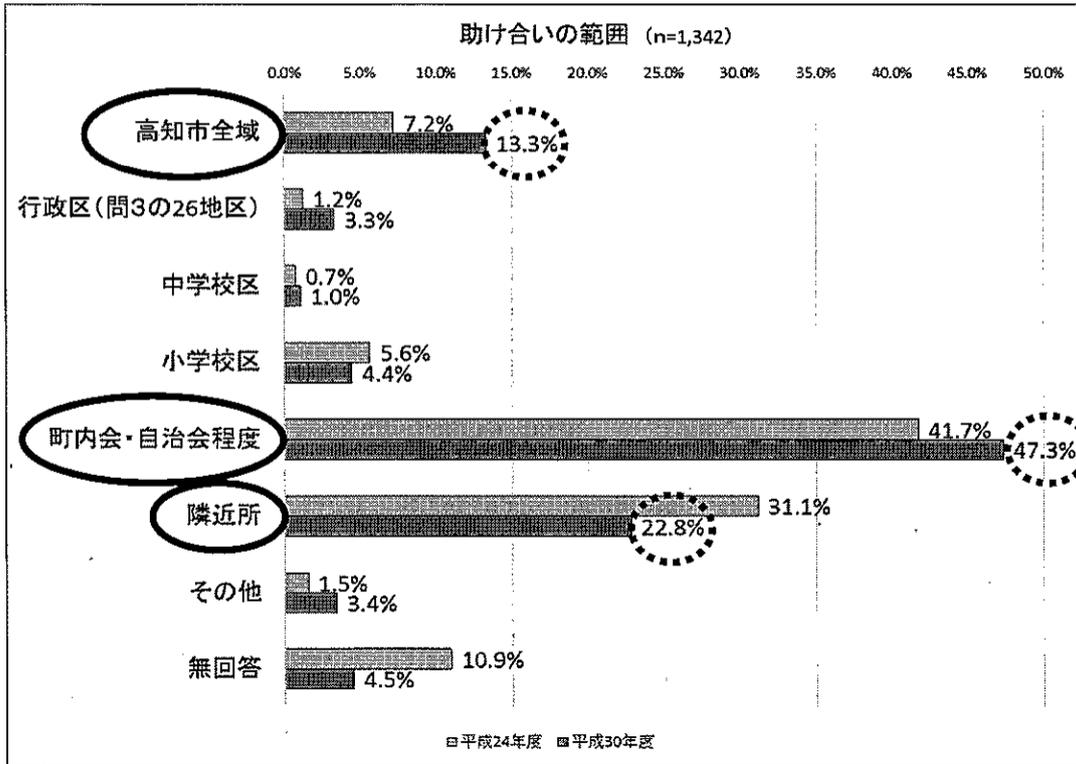
【年齢】は40歳代の回答が2.8%増加，70歳以上の回答が7.0%増加していた。



2 市民対象調査 結果詳細

【助け合いの範囲】

「町内会・自治会程度」が47.3%と最も高く(前回調査の回答よりも5.6%増加)、次いで「隣近所」が22.8%(前回調査の回答よりも8.3%減少)、「高知市全域」が13.3%(前回調査の回答よりも6.1%増加)となっている。



8

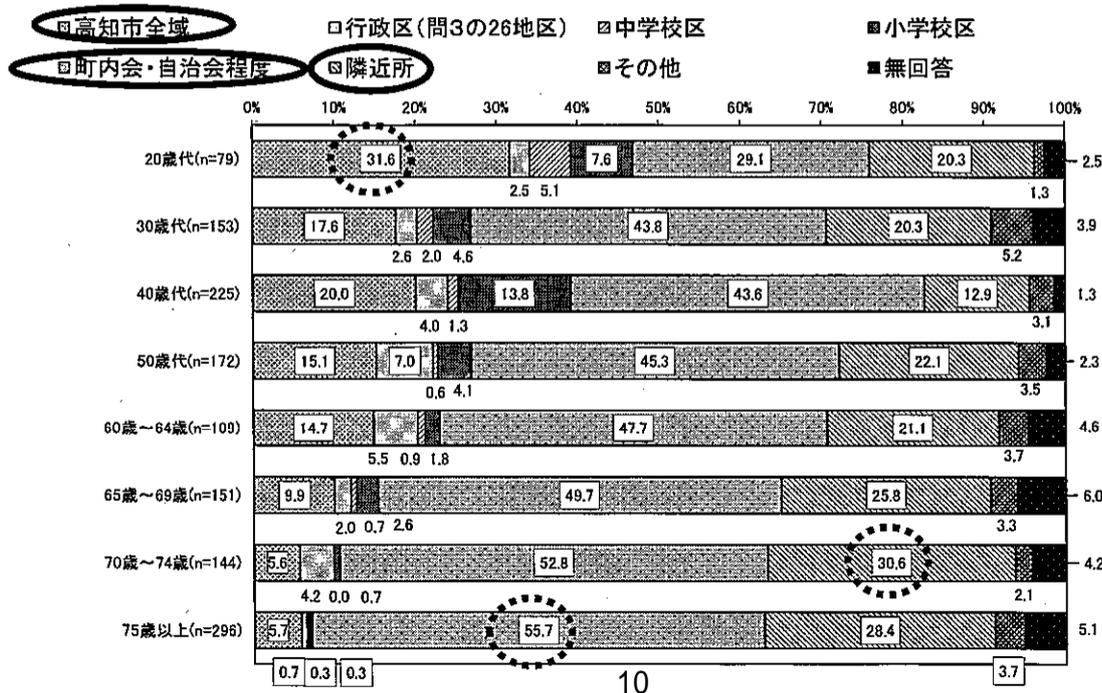
2 市民対象調査 結果詳細

【助け合いの範囲×年齢】

「町内会・自治会程度」と回答した割合は50歳代以上が約5割、30歳代～40歳代が約4割、20歳代が約3割となっている。

「隣近所」と回答した割合は65歳以上が約3割、20歳代、30歳代、50歳代、60～64歳は2割、40歳代が1割となっている。

「高知市全域」と回答した割合は「20歳代」が一番多く31.6%、次いで40歳代20.0%、30歳代17.6%となっている。



9

2 市民対象調査 結果詳細

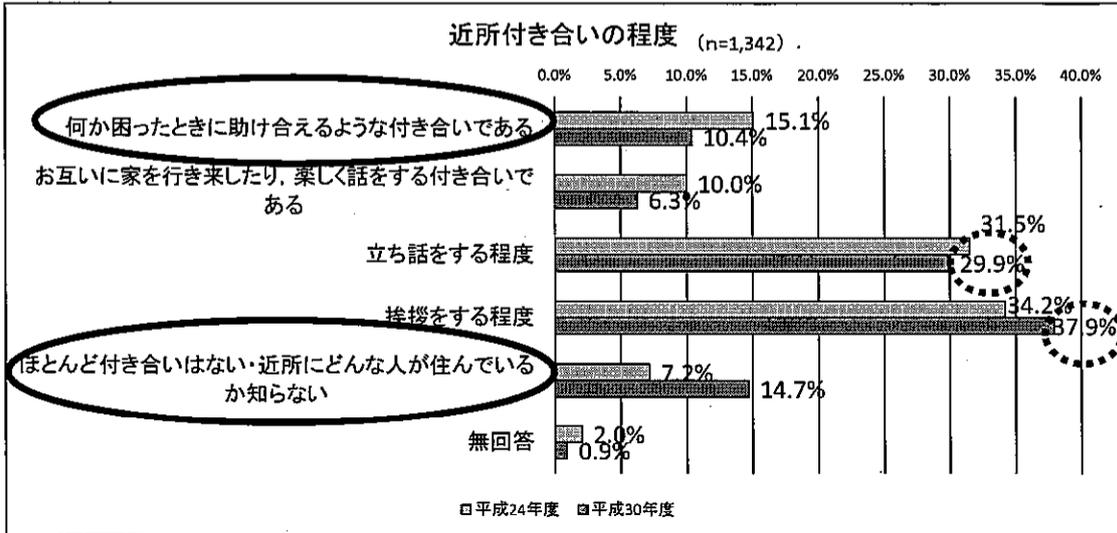
【近所付き合いの程度】

「挨拶をする程度」が37.9%と最も高く、次いで「立ち話をする程度」が29.9%、「ほとんど付き合いはない」が10.6%となっている。

「何か困ったときに助け合えるような付き合いである(10.4%)」と回答した方(前回調査の回答よりも4.7%減少)と「お互いに家を行き来したり、楽しく話をする付き合いである(6.3%)」と回答した方(前回調査の回答よりも3.7%減少)を加えた割合は約2割である。

⇒年齢別で見ると、「何か困ったときに助け合えるような付き合いである」と回答した割合は70歳～74歳代が一番多く、22.9%、次いで75歳以上が13.5%となっている。

⇒平成24年度と比較して一番増加している項目は「ほとんど付き合いはない・近所にどんな人が住んでいるか知らない(7.5%)」で約2倍となっている。



10

2 市民対象調査 結果詳細

指標(基本目標2)

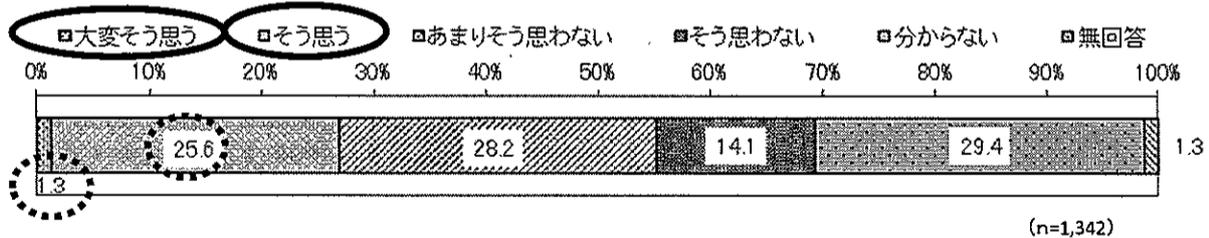
【地域での助け合いの現状】

お互いに助け合いができていると思うかという問いに対して、「分からない」が29.4%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が28.2%、「そう思う」が25.6%となっている。

「大変そう思う(1.3%)」と「そう思う(25.6%)」を足した割合は約3割である。

「あまりそう思わない(28.2%)」と「そう思わない(14.1%)」を足した割合は4割である。

⇒年齢別で見ると、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した割合は40歳代(48.4%)と70歳～74歳代(47.2%)が多く、それぞれ約5割となっている。「分からない」と回答した割合は30歳代(39.9%)が一番多く、次いで65～69歳(35.1%)、60歳～64歳(34.9%)。



2 市民対象調査 結果詳細

指標(基本目標1)

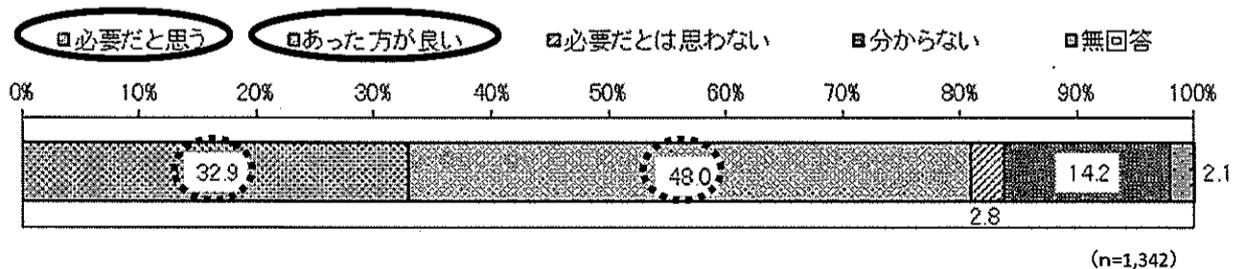
【住民同士の助け合いの必要性】

「あった方が良い」が48.0%と最も高く、次いで「必要だと思う」が32.9%、「分からない」が14.2%となっており、「あった方が良い」と「必要だと思う」を足した割合は8割となっている。

⇒年齢別でみると、「必要だと思う」の回答は、40歳代までは3割以下の回答であったものが、75歳以上になると44.3%と「あった方が良い(37.8%)」を上回っている。

⇒近所付き合いの程度別でみると、「ほとんど付き合いはない」「近所にどんな人が住んでいるか知らない」と回答した方が「必要だと思う」「あった方が良い」と回答した割合は6~7割であった。

⇒住まいの地域での助け合いができていないかどうか別でみると、「そう思わない」「分からない」と回答した方が「必要だと思う」「あった方が良い」と回答した割合は6~7割であった。



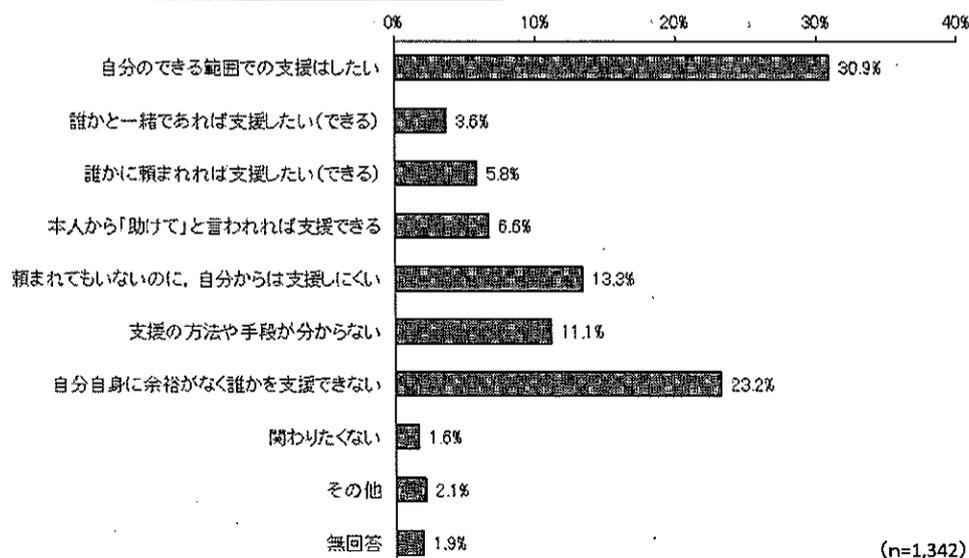
12

2 市民対象調査 結果詳細

【助け合いの意識】

「自分のできる範囲での支援はしたい」が30.9%と最も高く、次いで「自分自身に余裕がなく誰かを支援できない」が23.2%、「頼まれてもいないのに、自分からは支援しにくい」が13.3%となっている。一方、「関わりたくない」と回答した割合は1.6%であった。

「誰かに頼まれれば支援したい(できる)」と回答した方が5.8%、「頼まれてもいないのに、自分からは支援しにくい」と回答した方が13.3%と、支援することを頼む人がいることにより19.1%の方が支援してくれる可能性がある。また、「本人から「助けて」と言われれば支援できる」と回答した方が6.6%いることも含め、支援することを本人または他者から頼まれれば25.7%の方が支援してくれる可能性がある。



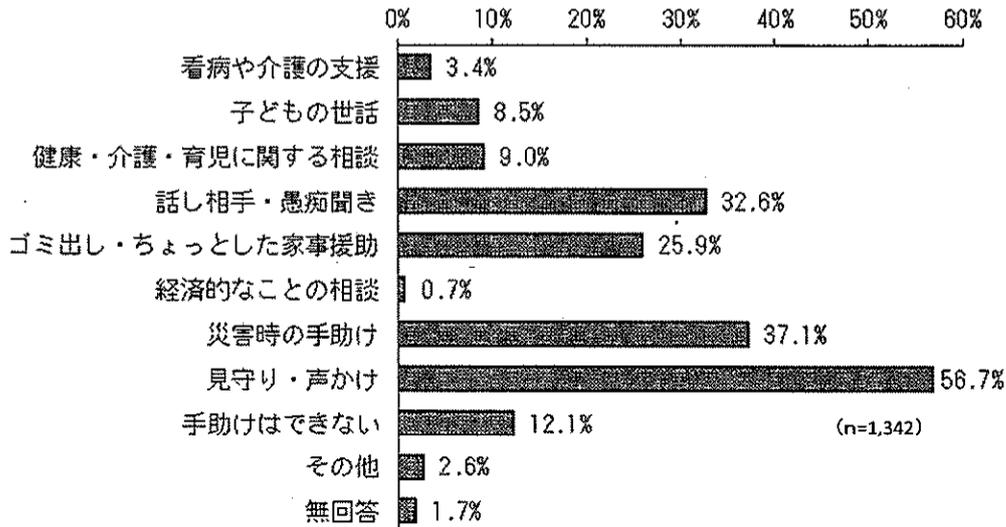
2 市民対象調査 結果詳細

【手助けできる具体的な内容(複数回答)】

あなたの近所の人が、高齢や障害、病気もしくは子育てなどにより、日常生活で手助けが必要になった時、どんなことであれば手助けできるかという問いに対して、「見守り・声かけ」が56.7%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が37.1%、「話し相手・愚痴聞き」が32.6%となっている。

⇒性別にみると、男性・女性ともに「見守り・声かけ」が最も高く、いずれも5割台。

- ・男性は次に多いのが「**災害時の手助け**」46.5%、「話し相手・愚痴聞き」27.3%、「ゴミ出し・ちょっとした家事援助」27.1%。
- ・女性は次に多いのが「**話し相手・愚痴聞き**」36.0%、「**災害時の手助け**」31.3%。
- ・男女を比較して男性が上回っている手助け内容は、「**災害時の手助け**」と「**ゴミ出し・ちょっとした家事援助**」



14

2 市民対象調査 結果詳細

【手助けできる具体的な内容×年齢】

⇒年齢別にみると、全ての年齢層で「見守り・声かけ」が最も高い手助け内容であった。

- ・「**見守り・声かけ**」については、20歳代～74歳において各年代の約6割の方ができる手助け内容となっている。
- ・「**災害時の手助け**」については、20歳代～50歳代において各年代の約5割の方ができる手助け内容となっている。
- ・「**話し相手・愚痴聞き**」については、どの年代においても各年代の約3～4割の方ができる手助け内容となっている。

	回答数	看病や介護の支援	子どもの世話	健康・介護・育児に関する相談	話し相手・愚痴聞き	経済的なことの相談	災害時の手助け	見守り・声かけ	手助けはできない	その他	無回答	
20歳代	79	6.3	22.8	8.9	36.7	22.8	1.3	54.4	55.7	10.1	0.0	1.3
30歳代	153	5.2	17.6	15.7	29.4	22.2	1.3	49.7	62.1	9.2	2.0	0.7
40歳代	225	3.1	11.1	12.0	37.8	23.1	0.4	44.9	67.6	7.6	0.9	0.9
50歳代	172	2.3	8.1	11.0	27.3	26.2	0.0	45.6	62.8	10.5	2.9	0.6
60歳～64歳	109	3.7	2.8	5.5	30.3	23.9	1.8	34.9	61.5	11.0	3.7	2.8
65歳～69歳	151	2.6	6.0	6.0	35.8	30.5	0.7	33.8	56.3	11.9	1.3	2.0
70歳～74歳	144	2.8	4.9	8.3	37.5	34.0	0.7	31.3	61.1	6.3	4.2	1.4
75歳以上	296	3.4	3.7	5.4	29.4	26.0	0.7	19.9	39.5	22.3	4.1	2.4

13

(n=1,342)

15

2 市民対象調査 結果詳細

【手助けできる具体的な内容×同居家族】

⇒同居家族の状況別にみると、世帯での支援が必要な方がいる状況の中でも5～7割の方が「見守り・声かけ」の手助けができると回答。特に「高校生以下の子どもがいる」世帯の方の回答割合は66.7%と全体の回答割合よりも上回っていた。

【手助けできる具体的な内容×経済】 ⇒報告書P.72参照

⇒経済状況が苦しい中でも、約5割の方が「見守り・声かけ」の手助けができると回答
・「大変苦しい」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは46.4%ができると回答
・「やや苦しい」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは55.3%ができると回答

【手助けできる具体的な内容×近所付き合いの程度】 ⇒報告書P.72参照

⇒近所付き合いがない状況の方でも、「見守り・声かけ」の手助けは約4割ができると回答
・「ほとんど付き合いはない」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは43.7%ができると回答
・「近所にどんな人が住んでいるか知らない」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは41.8%ができると回答

16

2 市民対象調査 結果詳細

【手助けできる具体的な内容×地域での助け合いの現状】

⇒住まいの地域で「助け合いができていない」または、「助け合いができていないかどうか分からない」と回答した方でも、約5～6割が「見守り・声かけ」の手助けができると回答
・助け合いができていないかどうかで、「あまりそう思わない」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは60.2%ができると回答
・助け合いができていないかどうかで、「そう思わない」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは49.7%ができると回答
・助け合いができていないかどうかで、「わからない」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは51.1%ができると回答

【手助けできる具体的な内容×住民同士の助け合いの必要性】

⇒住民同士の助け合いの必要性について「必要だと思わない」または、「分からない」と回答した方でも、約2～3割が「災害時の手助け」を、3～4割が「見守り・声かけ」ができると回答。
・「必要だと思わない」と回答した方の39.5%が「手助けはできない」、31.6%が「災害時の手助け」、28.9%が「見守り・声かけ」ができると回答。
・「分からない」と回答した方の40.0%が「見守り・声かけ」、27.9%が「手助けはできない」、21.6%が「災害時の手助け」と回答。

【手助けできる具体的な内容×助け合いの意識】

⇒「自分自身に余裕がなく誰かを支援できない」「関わりたくない」と回答した方でも、3～4割の方が「見守り・声かけ」の手助けができると回答。
・「自分自身に余裕がなく誰かを支援できない」と回答した方の40.4%が「見守り・声かけ」、35.3%が「手助けはできない」、17.9%が「災害時の手助け」と回答。
・「関わりたくない」と回答した方の61.9%が「手助けはできない」、33.3%が「見守り・声かけ」、14.3%が「災害時の手助け」と回答。

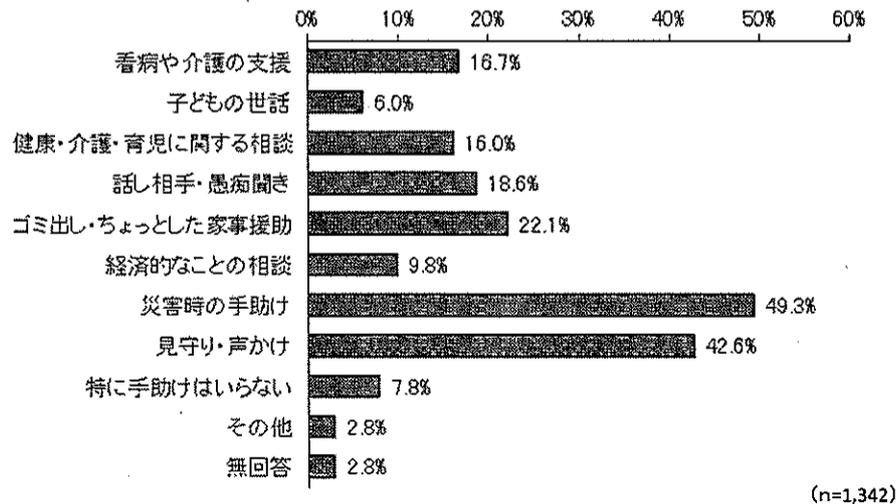
2 市民対象調査 結果詳細

【手助けしてほしい具体的な内容(複数回答)】

「災害時の手助け」が49.3%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」が42.6%、「ゴミ出し・ちょっとした家事援助」が22.1%となっている。

⇒居住年数別にみると、「1年未満」の方が「災害時の手助け」を求める割合は70.7%と、他の居住年数の方が約5割の中で割合が一番多い。

⇒助け合いの意識別にみると、「関わりたくない」と回答した方で「特に手助けはいらない」と回答した割合は47.6%

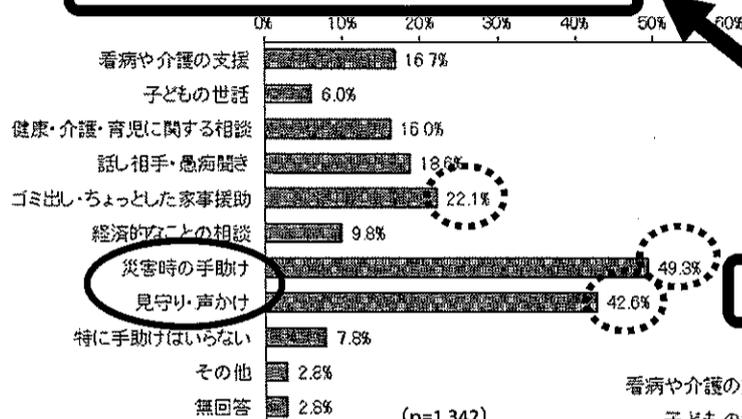


18

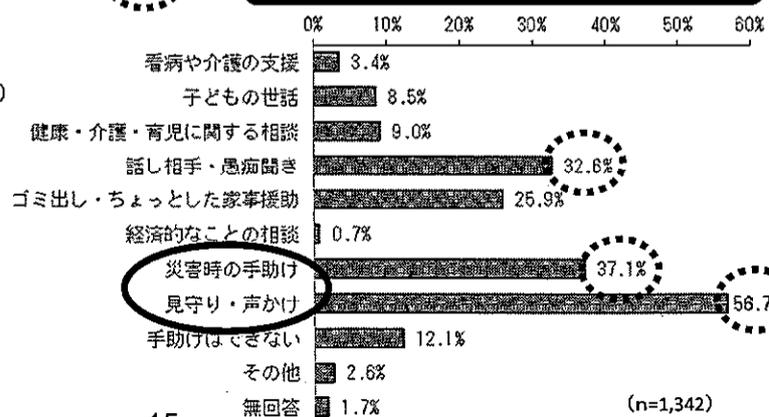
2 市民対象調査 結果詳細

「手助けしてほしい具体的な内容」と「手助けできる具体的な内容」を比較してみると、「災害時の手助け」と「見守り・声かけ」については共に割合の上位を占めていた。

【手助けしてほしい具体的な内容】



【手助けできる具体的な内容】



15

19

2 市民対象調査 結果詳細

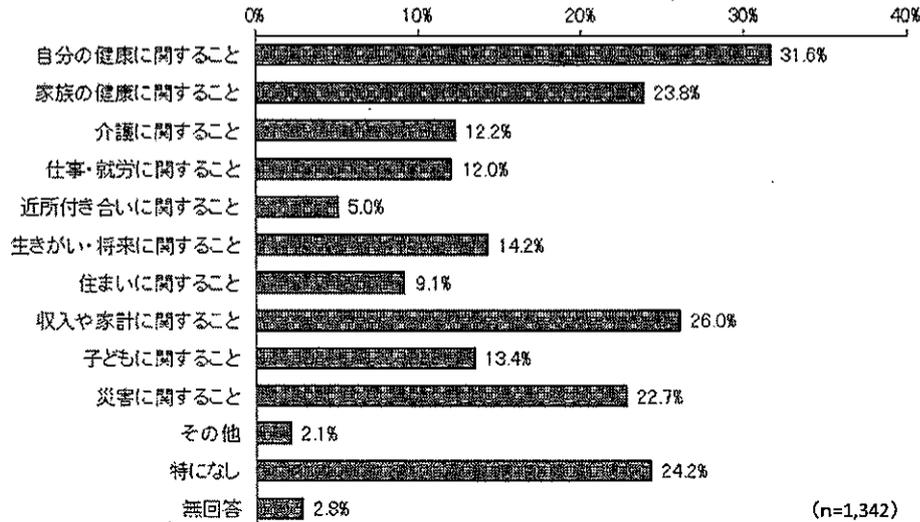
【自身の困りごと(複数回答)】

「自分の健康に関すること」が31.6%と最も高く、次いで「収入や家計に関すること」が26.0%、「特になし」が24.2%、「災害に関すること」が22.7%となっている。

⇒年齢別にみると20歳代、30歳代、40歳代では「収入や家計に関すること」が3～4割、50歳代は「家族の健康に関すること」が3割、60歳代～74歳は「自分の健康に関すること」が3割、75歳以上は「自分の健康に関すること」が5割となっている。

⇒家族構成別にみると「単身」の方の困りごととして「自分の健康に関すること」と回答した方が43.8%。

⇒同居家族の状況別にみると「介護を必要とする方がいる」世帯の困りごとは「自分の健康に関すること(53.1%)」「介護に関すること(47.8%)」「家族の健康に関すること(44.2%)」の順に多かった。「障害のある方がいる」世帯の困りごとは「自分の健康に関すること(51.8%)」「家族の健康に関すること(40.9%)」「介護に関すること(32.1%)」の順に多かった。



2 市民対象調査 結果詳細

【相談相手(複数回答)】

「家族や親族」が79.4%と最も高く、次いで「知人・友人」が44.2%、「医療機関」が14.3%となっている。

⇒年齢別にみると、どの年代層も約8割が相談相手として「家族や親族」を選択。

・「知人・友人」を相談相手として選択した方は、20～30歳代が約6割、40歳代が約5割、50～60歳代が約4割、70～74歳が約3割、75歳以上が約2割が選択。

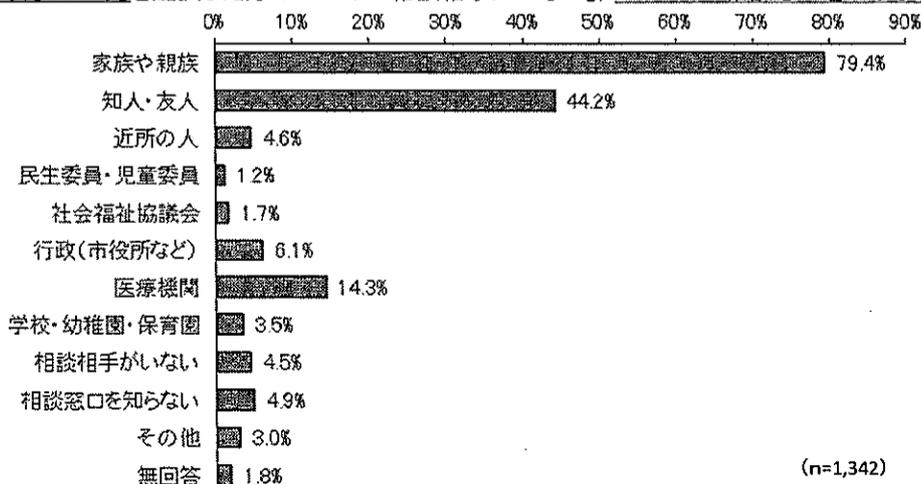
・「相談相手がいない」を選択した方の割合を年代比較すると20歳代が一番高い(6.3%)。

・「相談窓口を知らない」を選択した方の割合を年代比較すると70～74歳代が一番高く(8.3%)、次いで75歳以上(7.1%)。

⇒同居家族の状況別にみると、

・「介護を必要とする方がいる」を選択した方の7.1%が「相談相手がいない」、7.1%が「相談窓口を知らない」。

・「障害のある方がいる」を選択した方の8.8%が「相談相手がいない」、10.9%が「相談窓口を知らない」。

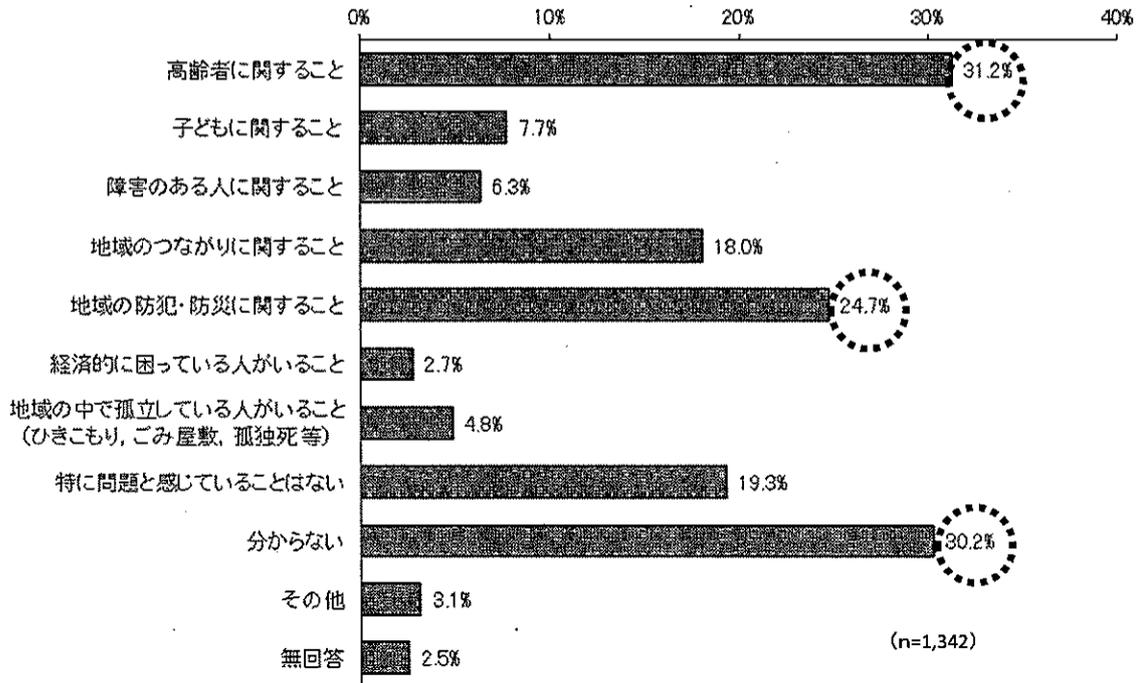


2 市民対象調査 結果詳細

【地域の生活課題(複数回答)】

「高齢者に関すること」が31.2%と最も高く、次いで「分からない」が30.2%、「地域の防犯・防災に関すること」が24.7%となっている。

⇒性別でみると、「分からない」と回答した割合は男性では26.0%、女性では33.0%。



22

2 市民対象調査 結果詳細

【地域の生活課題×年齢】

⇒年齢別でみると、

- ・「高齢者に関すること」は「70～74歳代」が40.3%、次いで「50歳代」が36%、「65歳～69歳」が32.5%、「75歳以上」が32.1%。
- ・「地域の防犯・防災に関すること」は「20歳代～50歳代」は約3割、「60歳代以上」は約2割。
- ・「特に問題と感じていることはない」は「60歳代」が約2割、「70歳代以上」が約3割。
- ・「分からない」は「60～64歳」が約4割、それ以外は2～3割。

	回答数	高齢者に関すること	子どもに関すること	障害のある人に関すること	地域のつながりに関すること	地域の防犯・防災に関すること	経済的に困っている人がいること	地域の中で孤立している人がいること (ひきこもり, ごみ屋敷, 孤独死等)	特に問題と感じていることはない	分からない	その他	無回答	(%)
20歳代	79	20.3	12.7	6.3	16.5	25.3	3.8	3.8	12.7	32.9	3.8	1.3	
30歳代	153	25.5	16.3	3.9	14.4	25.5	3.9	5.9	17.0	34.6	5.2	1.3	
40歳代	225	30.7	18.7	9.3	17.3	32.0	1.3	6.2	10.2	27.1	4.0	1.8	
50歳代	172	36.0	5.2	7.6	20.9	30.2	5.8	5.2	14.0	32.6	5.2	1.2	
60歳～64歳	109	24.8	4.6	3.7	16.5	19.3	1.8	1.8	22.0	43.1	1.8	1.8	
65歳～69歳	151	32.5	2.6	5.3	22.5	18.5	3.3	5.3	21.9	33.8	2.6	1.3	
70歳～74歳	144	40.3	2.1	6.3	20.8	18.1	2.8	5.6	25.7	20.1	2.1	3.5	
75歳以上	296	32.1	1.4	5.7	15.2	23.6	1.0	4.1	26.7	27.0	1.0	5.1	

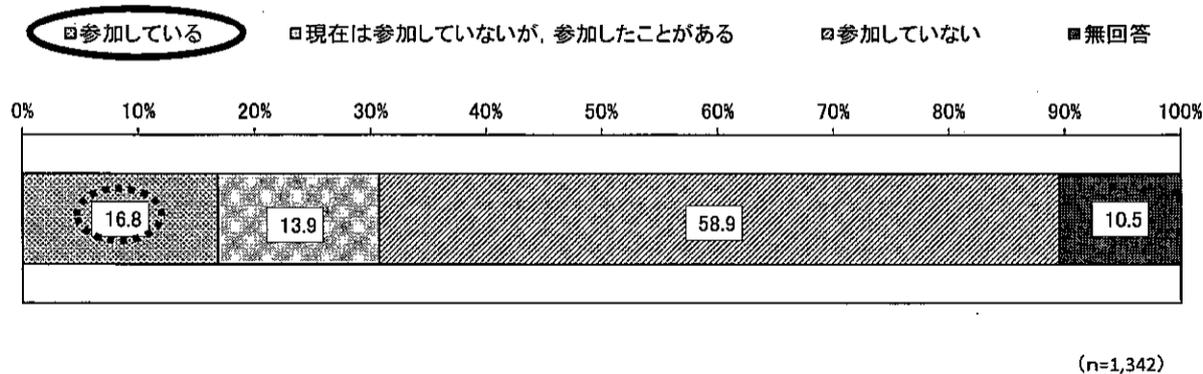
2 市民対象調査 結果詳細

指標(全体)

【地域活動・ボランティア活動への参加の有無】

「参加していない」が58.9%と最も高く、次いで「参加している」が16.8%、「現在は参加していないが、参加したことがある」が13.9%となっている。

⇒性別で見ると、「参加している」方の性別では男性21.2%、女性14.1%と男性の参加者の割合が多い。
⇒家族構成別にみると「単身」の方の7割が「参加していない」



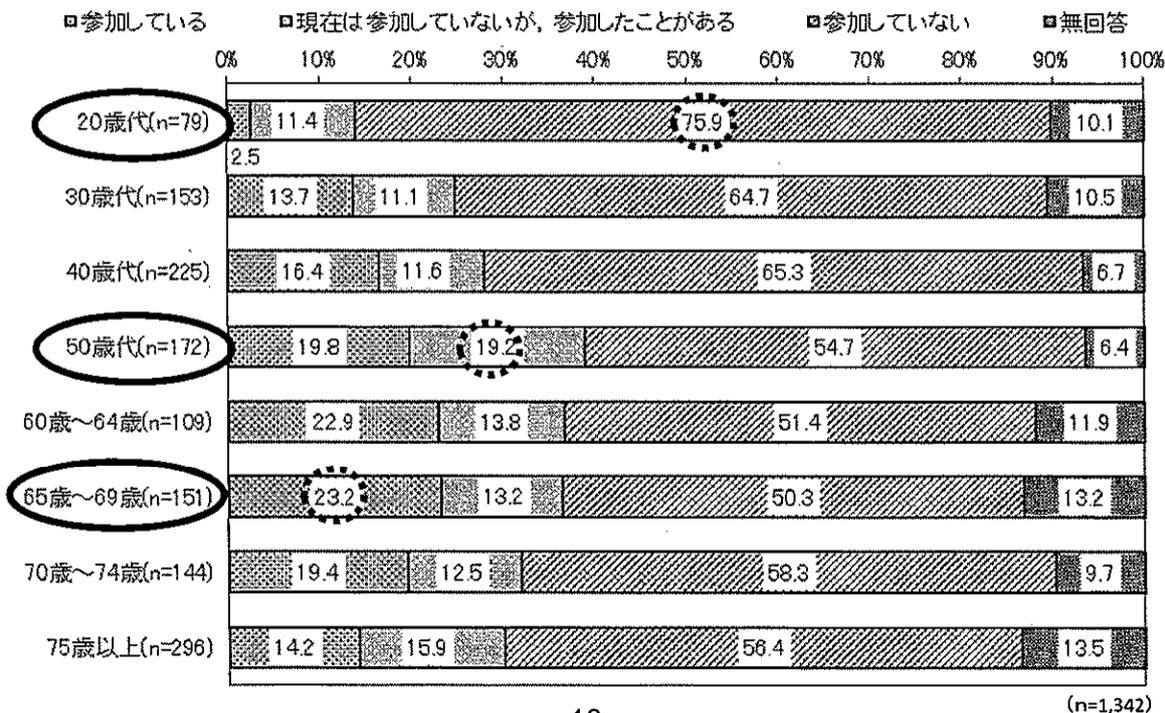
24

2 市民対象調査 結果詳細

【地域活動・ボランティア活動への参加の有無 × 年齢】

年齢別で見ると、

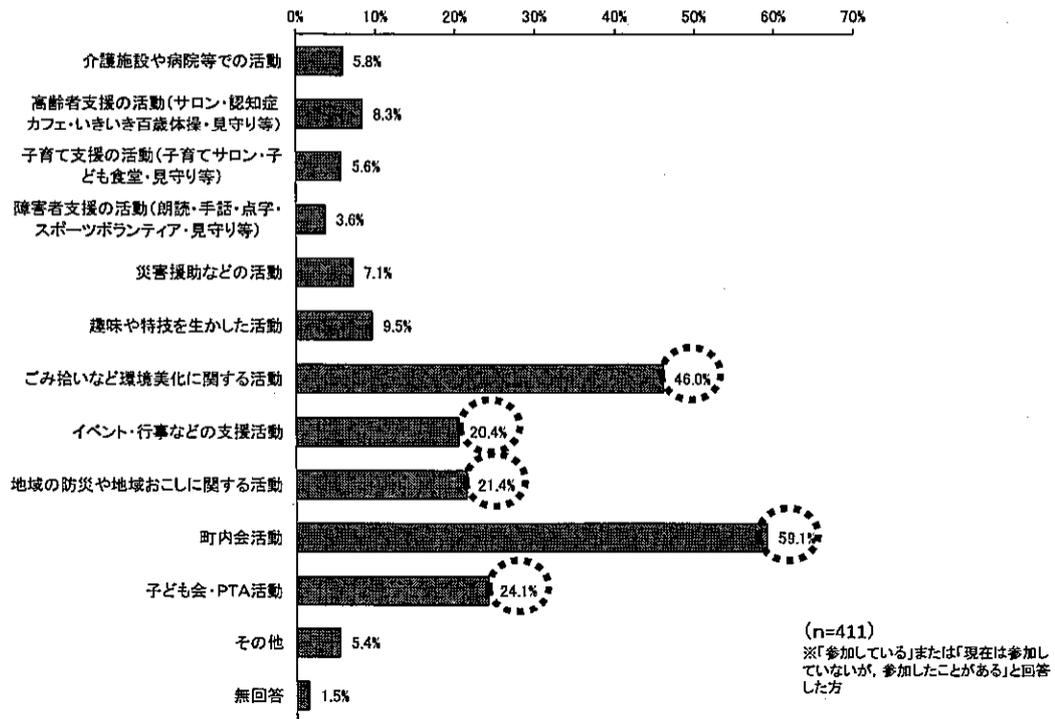
・「参加している」と回答した方は、65～69歳の割合が23.2%と一番多く、次いで60～64歳が22.9%となっていた。
・「現在は参加していないが、参加したことがある」と回答した方は、50歳代が一番多く(19.2%)、次いで75歳以上となっていた(15.9%)。



2 市民対象調査 結果詳細

【参加している活動・参加したことがある活動の内容(複数回答)】

「町内会活動」が59.1%と最も高く、次いで「ごみ拾いなど環境美化に関する活動」が46.0%、「子ども会・PTA活動」が24.1%、「地域の防災や地域おこしに関する活動」21.4%となっている。



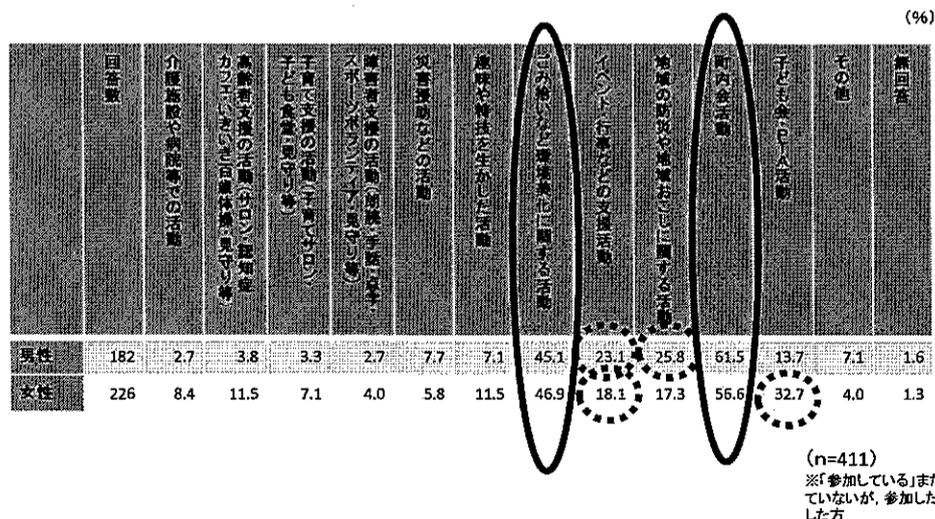
26

2 市民対象調査 結果詳細

【参加している活動の内容・参加したことがある活動×性別】

性別でみると、

- ・「町内会活動」については男性の61.5%が、女性の56.6%が参加している、または参加したことがあるとの回答。
- ・「ごみ拾いなどの環境美化に関する活動」については男性の45.1%が、女性の46.9%が参加している、または参加したことがあるとの回答。
- ・男性の選択内容として「町内活動(61.5%)」、「ごみ拾いなど環境美化に関する活動(45.1%)」、「地域の防災や地域おこしに関する活動(25.8%)」、「イベント・行事などの支援活動(23.1%)」の順に多かった。
- ・女性の選択内容として「町内活動(56.6%)」、「ごみ拾いなど環境美化に関する活動(46.9%)」、「子ども会・PTA活動(32.7%)」、「イベント・行事などの支援活動(18.1%)」の順に多かった。



2 市民対象調査 結果詳細

【参加している活動の内容×年齢】

年齢別にみると

- ・20歳代、30歳代の回答内容としては、「ごみ拾いなど環境美化に関する活動」がそれぞれ72.7%、47.4%。
- ・40歳代以降の回答内容としては「町内会活動」が5～6割となっている。
- ・40歳代の5割は「子ども会・PTA活動」と回答している。
- ・「町内会活動」の回答割合は60～64歳代が67.5%と一番多かった。
- ・「ごみ拾いなど環境美化に関する活動」の回答割合は20歳代が72.7%と一番多かった。

年齢	回答数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
20歳代	11	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	72.7	27.3	27.3	36.4	9.1	0.0	0.0		
30歳代	38	5.3	2.6	10.5	5.3	5.3	5.3	47.4	21.1	26.3	44.7	36.8	7.9	2.6		
40歳代	63	3.2	3.2	4.8	3.2	3.2	0.0	45.2	25.4	12.7	61.9	50.8	3.2	0.0		
50歳代	67	7.5	4.5	4.5	1.5	9.0	4.5	43.3	20.9	19.4	47.8	26.9	11.9	1.5		
60歳～64歳	40	0.0	0.0	2.5	0.0	10.0	15.0	47.5	22.5	25.0	67.5	25.0	2.5	2.5		
65歳～69歳	55	7.3	9.1	7.3	7.3	7.3	10.9	45.5	21.8	18.2	61.8	16.4	1.8	0.0		
70歳～74歳	46	4.3	8.7	2.2	0.0	2.2	21.7	43.5	15.2	19.6	65.2	13.0	6.5	0.0		
75歳以上	89	9.0	21.3	6.7	6.7	10.1	12.4	42.7	15.7	27.0	65.2	10.1	4.5	3.4		

(%)

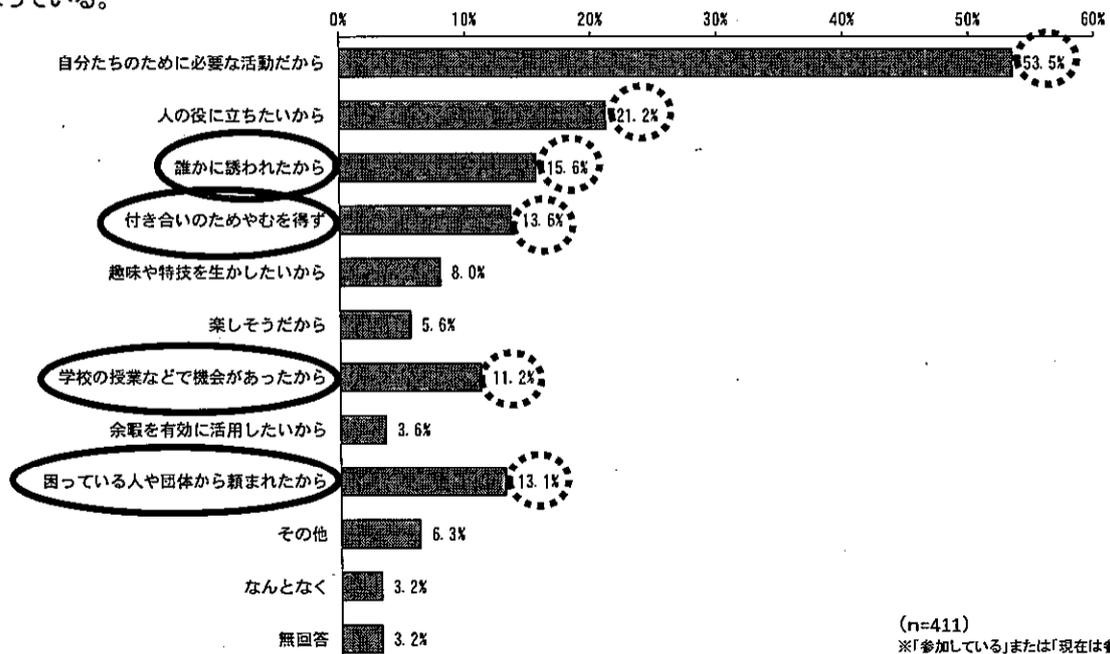
(n=411)
※「参加している」または「現在は参加していないが、参加したことがある」と回答した方

28

2 市民対象調査 結果詳細

【参加している活動・参加したことがある活動に参加したきっかけ】

「自分たちのために必要な活動だから」が53.5%と最も高く、次いで「人の役に立ちたいから(21.2%)」、「誰かに誘われたから(15.6%)」、「付き合いのためやむを得ず(13.6%)」、「困っている人や団体から頼まれたから(13.1%)」、「学校の授業などで機会があったから(11.2%)」の順で活動をしている人、活動をしたことのある人の参加のきっかけとなっている。



(n=411)
※「参加している」または「現在は参加していないが、参加したことがある」と回答した方

2 市民対象調査 結果詳細

【参加している活動・参加したことがある活動に参加したきっかけ×性別】

- 性別でみると、
- ・男性は女性よりも「付き合いのためやむを得ず」「困っている人や団体から頼まれたから」の割合が高い。
 - ・女性は男性よりも「趣味や特技を生かしたいから」「学校の授業などで機会があったから」の割合が高い。

	回答数	自分たちのために必要な活動だから	人の役に立ちたいから	誰かに頼られたから	困っている人や団体から頼まれたから	趣味や特技を生かしたいから	学校の授業などで機会があったから	余暇を有効に活用したいから	困っている人や団体から頼まれたから	その他	なんともなく	無回答	
男性	182	57.1	19.8	14.8	15.9	5.5	3.8	7.1	3.8	15.9	4.9	2.7	2.2
女性	226	50.4	21.7	16.4	11.9	10.2	7.1	14.6	3.5	11.1	7.5	3.5	4.0

(n=411)
 ※「参加している」または「現在は参加していないが、参加したことがある」と回答した方

30

2 市民対象調査 結果詳細

【参加している活動・参加したことがある活動に参加したきっかけ×年齢】

- 年齢別にみると、
- ・20歳代は「人の役に立ちたいから(45.5%)」の回答が一番多く、次いで「自分たちのために必要な活動だから(36.4%)」「学校の授業などで機会があったから(36.4%)」となっている。

	回答数	自分たちのために必要な活動だから	人の役に立ちたいから	誰かに頼られたから	困っている人や団体から頼まれたから	趣味や特技を生かしたいから	学校の授業などで機会があったから	余暇を有効に活用したいから	困っている人や団体から頼まれたから	その他	なんともなく	無回答	
20歳代	11	36.4	45.5	9.1	9.1	0.0	0.0	36.4	9.1	9.1	0.0	18.2	9.1
30歳代	38	42.1	21.1	18.4	13.2	2.6	10.5	15.8	2.6	7.9	13.2	5.3	0.0
40歳代	63	49.2	12.7	17.5	11.1	3.2	7.9	17.5	0.0	17.5	7.9	3.2	0.0
50歳代	67	44.8	20.9	22.4	17.9	6.0	1.5	14.9	0.0	11.9	9.0	3.0	3.0
60歳～64歳	40	57.5	7.5	12.5	27.5	10.0	7.5	12.5	5.0	2.5	5.0	0.0	7.5
65歳～69歳	55	50.9	27.3	7.3	20.0	10.9	1.8	9.1	9.1	20.0	5.5	1.8	0.0
70歳～74歳	46	58.7	26.1	19.6	2.2	13.0	4.3	4.3	2.2	19.6	6.5	2.2	2.2
75歳以上	89	66.3	23.6	13.5	9.0	11.2	7.9	3.4	5.6	11.2	2.2	3.4	6.7

(n=411)
 ※「参加している」または「現在は参加していないが、参加したことがある」と回答した方

2 市民対象調査 結果詳細

指標(基本目標1)

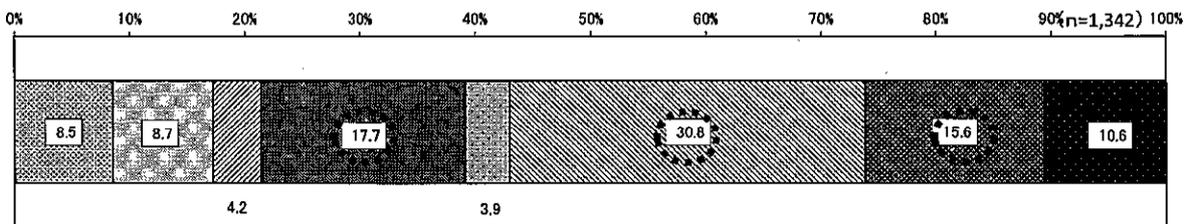
【今後の活動意向】

「参加したい気持ちはあるが、参加できない」が30.8%と最も高く(前回調査の回答よりも12.9%増加)、次いで「時間ができたら参加したい」が17.7%(前回調査の回答よりも13.0%減少)、「参加したくない」が15.6%(前回調査の回答よりも6.1%増加)となっている。

⇒同居家族別にみると、「高校生以下の子どもがいる」世帯でも、約3割が「時間ができたら参加したい」と回答。

⇒経済別にみると、「大変苦しい」と回答した方でも、「参加したくない」は23.5%。「やや苦しい」と回答した方でも、「参加したくない」は11.9%。

- 現在している活動を継続したい
- 機会があれば、ぜひ参加したい
- 友人などが一緒なら参加したい
- 時間ができたら参加したい
- 学習の機会があつたら参加したい
- 参加したい気持ちはあるが、参加できない
- 参加したくない
- 無回答



32

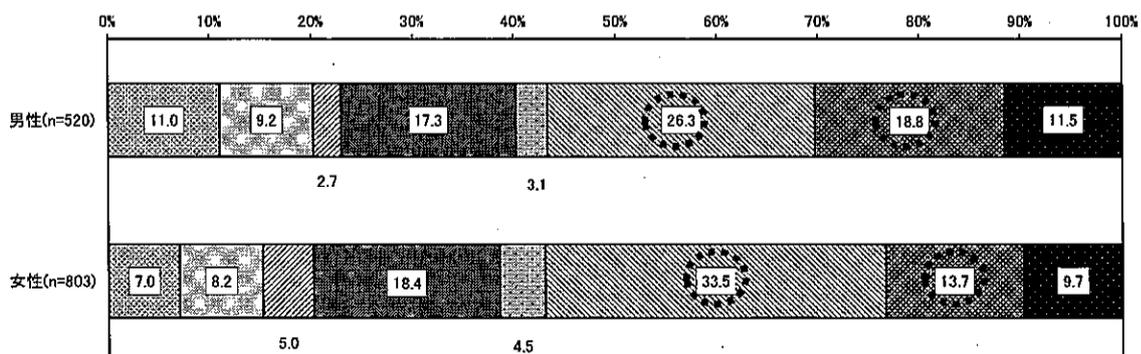
2 市民対象調査 結果詳細

【今後の活動意向 × 性別】

性別でみると、

- ・「現在している活動を継続したい」については、男性11%、女性7%と男性の割合が多い。
- ・「友人などが一緒なら参加したい」については、男性2.7%、女性5.0%と女性の割合が多い。
- ・「参加したい気持ちはあるが、参加できない」については、男性26.3%、女性33.5%と女性の割合が多い。
- ・「参加したくない」については、男性18.8%、女性13.7%と男性の割合が高い。

- 現在している活動を継続したい
- 機会があれば、ぜひ参加したい
- 友人などが一緒なら参加したい
- 時間ができたら参加したい
- 学習の機会があつたら参加したい
- 参加したい気持ちはあるが、参加できない
- 参加したくない
- 無回答



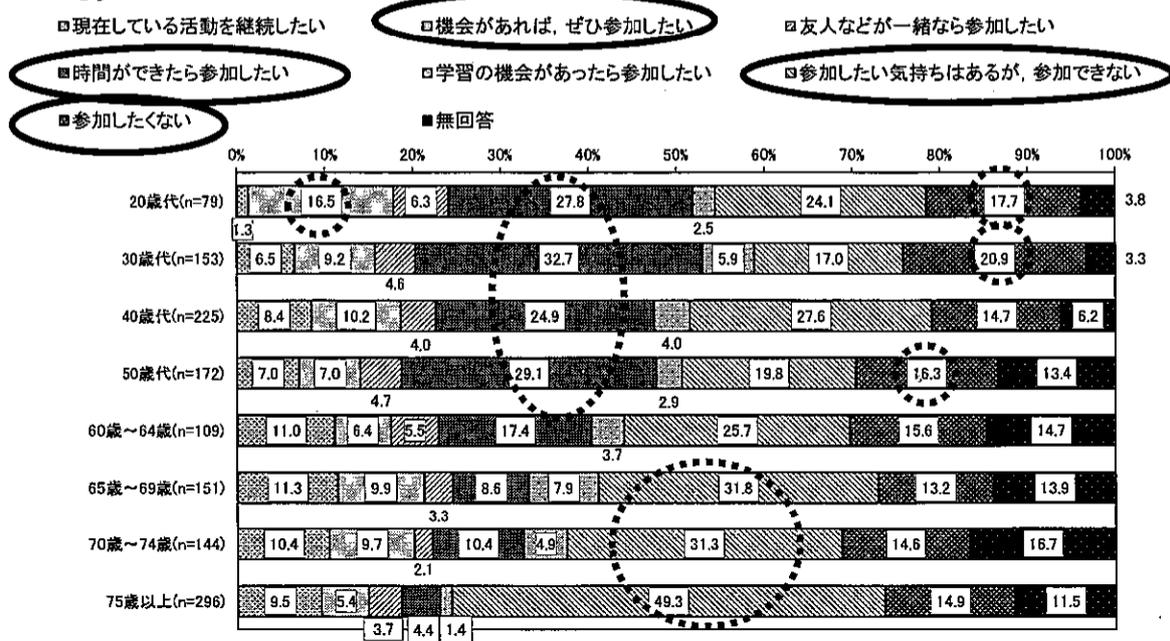
33

2 市民対象調査 結果詳細

【今後の活動意向×年齢】

⇒年齢別にみると、

- ・「現在している活動を継続したい」という回答は、60歳以上はどの年齢層も約1割である。
- ・「機会があれば、ぜひ参加したい」という回答は、20歳代が一番割合が高く16.5%の回答がある。
- ・「時間ができたら参加したい」という回答は、20歳代～50歳代の約3割が回答している。
- ・「参加したい気持ちはあるが、参加できない」という回答は、65歳から3～4割が回答している。
- ・「参加したくない」という回答は、30歳代の割合が一番多く、20.9%。次いで20歳代が17.7%、50歳代が16.3%となっている。

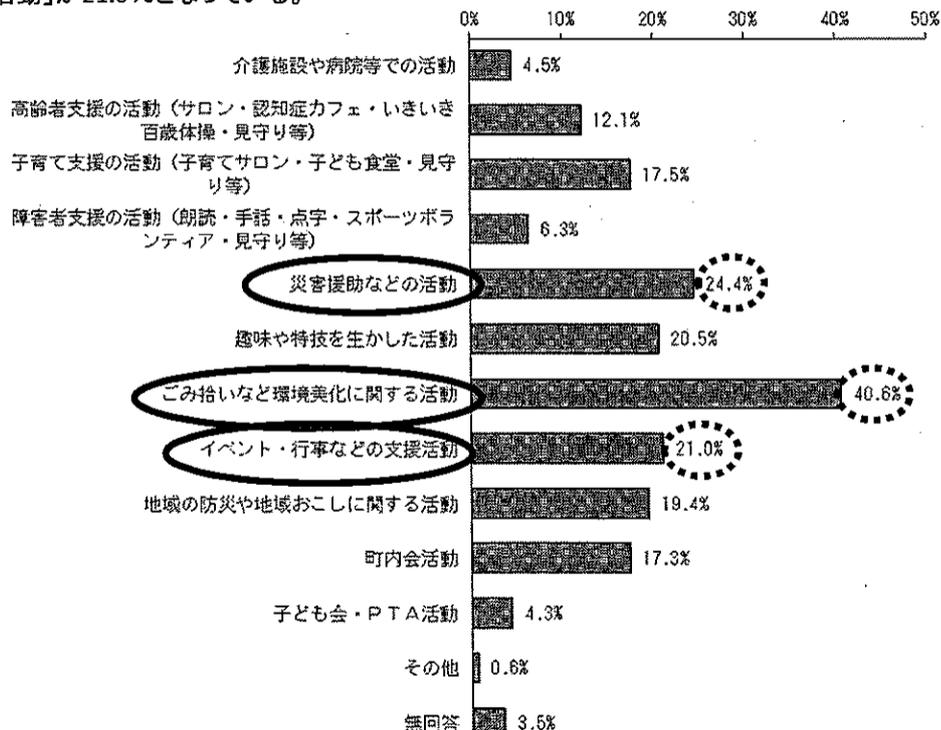


34

2 市民対象調査 結果詳細

【(活動意向のある方の)今後、参加してみたい活動内容(複数回答)】

「ごみ拾いなど環境美化に関する活動」が40.6%と最も高く、次いで「災害援助などの活動」が24.4%、「イベント・行事などの支援活動」が21.0%となっている。



(n=463)

35

2 市民対象調査 結果詳細

【(活動意向のある方の)今後、参加してみたい活動内容(複数回答)×年齢】

全ての年齢別で「ごみ拾いなど環境美化に関する活動」が最も高く、3～4割を占めている。70歳～74歳では「町内会活動」も同率で最も高くなっている。

⇒年齢別にみても

・20歳代で活動したい内容は「ごみ拾いなど環境美化に関する活動(47.6%)」、「子育て支援の活動(子育てサロン・子ども食堂・見守り等)(33.3%)」、「趣味や特技を生かした活動(28.6%)」、「イベント・行事などの支援活動(28.6%)」の順に多い。

・30歳代で活動したい内容は「ごみ拾いなど環境美化に関する活動(41.3%)」、「子育て支援の活動(子育てサロン・子ども食堂・見守り等)(32.5%)」、「イベント・行事などの支援活動(32.5%)」、「災害援助などの活動(27.5%)」の順に多い。

・60歳～64歳で活動したい内容は「ごみ拾いなど環境美化に関する活動(47.2%)」、「災害援助などの活動(25.0%)」、「町内活動(22.2%)」の順に多い。

36

2 市民対象調査 結果詳細

【(活動意向のある方の)今後、参加してみたい活動内容(複数回答)×年齢】

(%)

	回答数	介護施設や病院等の活動	高齢者支援の活動 (子育てサロン・子ども食堂・見守り等)	子育て支援の活動 (子育てサロン・子ども食堂・見守り等)	障がい者支援の活動 (障がい者就労支援・スポーツ・アート・見守り等)	文書援助などの活動	趣味や特技を生かした活動	ごみ拾いなど環境美化に関する活動	イベント・行事などの支援活動	地域の防災や地域おこしに関する活動	町内会活動	子ども食堂・NPO活動	その他	無回答
20歳代	42	11.9	14.3	33.3	2.4	21.4	28.6	47.6	28.6	11.9	4.8	2.4	0.0	0.0
30歳代	80	3.8	11.3	32.5	3.8	27.5	18.8	41.3	32.5	15.0	12.5	11.3	1.3	0.0
40歳代	97	4.1	8.2	13.4	12.4	30.9	23.7	38.1	19.6	26.8	13.4	7.2	0.0	1.0
50歳代	75	2.7	9.3	17.3	8.0	21.3	18.7	44.0	20.0	24.0	13.3	1.3	0.0	5.3
60歳～64歳	36	2.8	13.9	11.1	2.8	25.0	16.7	47.2	16.7	16.7	22.2	0.0	0.0	0.0
65歳～69歳	45	6.7	17.8	13.3	11.1	17.8	15.6	35.6	13.3	17.8	24.4	2.2	0.0	6.7
70歳～74歳	39	2.6	12.8	5.1	2.6	17.9	25.6	30.8	17.9	20.5	30.8	0.0	5.1	7.7
75歳以上	44	2.3	15.9	2.3	0.0	20.5	15.9	38.6	11.4	13.6	31.8	2.3	0.0	11.4

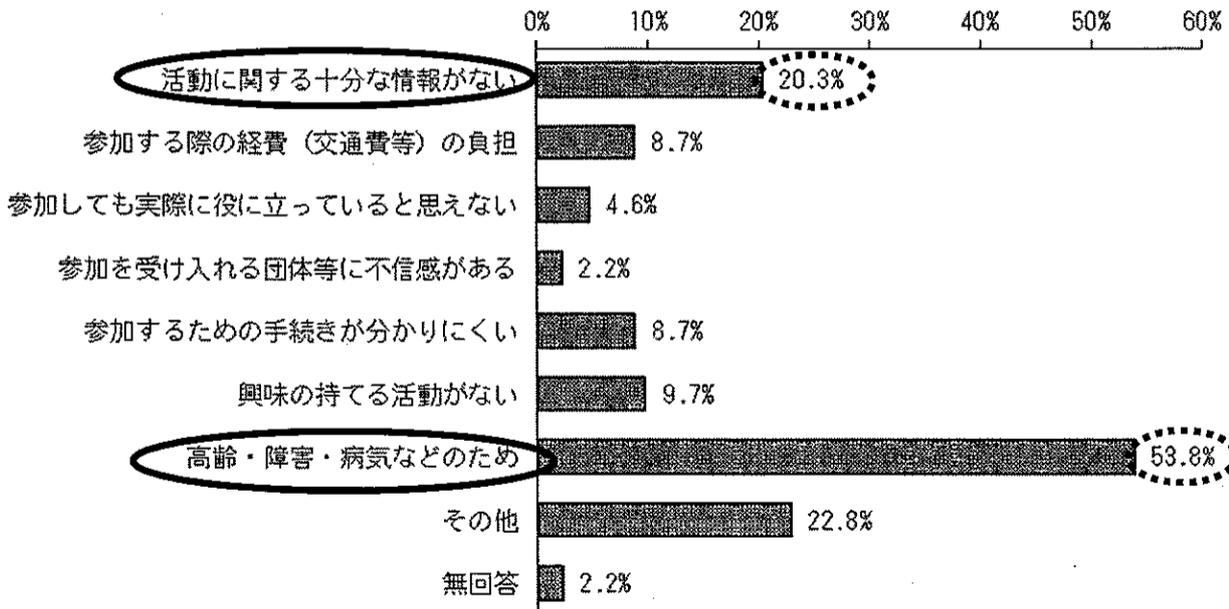
(n=463)

37

2 市民対象調査 結果詳細

【(活動意向はあるが参加できない方の)参加の妨げ(複数回答)】

「高齢・障害・病気などのため」が53.8%と最も高く、次いで「その他」が22.8%、「活動に関する十分な情報がない」が20.3%となっている。



(n=413)

38

2 市民対象調査 結果詳細

【(活動意向はあるが参加できない方の)参加の妨げ(複数回答)×年齢】

年齢別でみると、

- ・50歳代以上の選択項目が「一番多いものが「高齢・障害・病気などのため」である。50歳代～60歳代の約4割が、70～74歳の7割が、75歳以上の9割が選択している。
- ・20歳代と60～64歳の選択項目が「一番多いものが「活動に関する十分な情報がない」(20歳代:52.6%)(60～64歳:42.9%)」
- ・20歳代の選択項目が二番目に多いものが「興味の持てる活動がない」(31.6%)、三番目に多いものが「参加するための手続きが分かりにくい」(15.8%)」
- ・30歳代の選択項目の一番目に多いものが「その他」(69.2%)、次いで「活動に関する十分な情報がない」(23.1%)」
- ・40歳代の選択項目の一番目に多いものが「その他」(43.5%)、次いで「活動に関する十分な情報がない」(30.6%)」
- ・50歳代の選択項目の二番目に多いものが「活動に関する十分な情報がない」(23.5%)」
- ・60～64歳の選択項目の一番目に多いものが「活動に関する十分な情報がない」(42.9%)」と「高齢・障害・病気などのため」(42.9%)」

2 市民対象調査 結果詳細

【(活動意向はあるが参加できない方の)参加の妨げ(複数回答)×年齢】

	回答数	活動に関する十分な情報がない	参加する際の経費(交通費等)の負担	参加する場所の確保が困難	参加を受け入れる団体等に不信感がある	参加するための手配をなかなかできない	入居している建物がない	参加する場所がない	その他	無回答
20歳代	19	52.6	10.5	5.3	5.3	15.8	31.6	0.0	36.8	5.3
30歳代	26	23.1	15.4	7.7	3.8	15.4	7.7	7.7	69.2	0.0
40歳代	62	30.6	16.1	11.3	4.8	12.9	16.1	11.3	43.5	4.8
50歳代	34	23.5	17.6	0.0	5.9	8.8	5.9	35.3	35.3	0.0
60～64歳	28	42.9	14.3	0.0	3.6	3.6	14.3	42.9	32.1	0.0
65～69歳	48	29.2	6.3	4.2	0.0	10.4	14.6	43.8	27.1	2.1
70～74歳	45	24.4	8.9	6.7	2.2	15.6	4.4	71.1	4.4	2.2
75歳以上	146	2.1	2.1	2.1	0.0	3.4	4.8	91.8	3.4	2.1

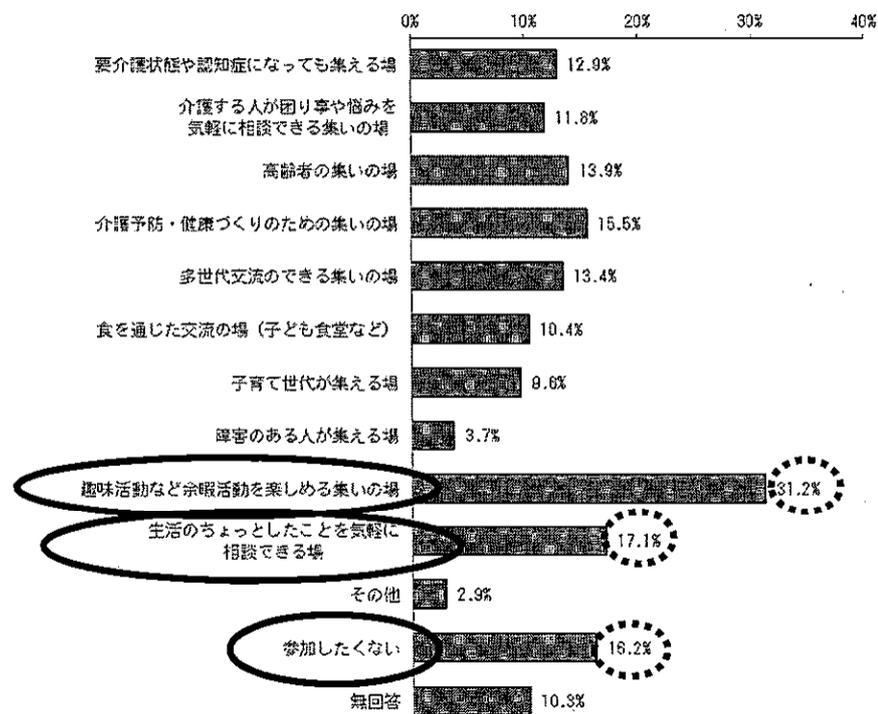
(n=413)

40

2 市民対象調査 結果詳細

【参加したい地域の集いの場(複数回答)】

「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場」が31.2%と最も高く、次いで「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場」が17.1%、「参加したくない」が16.2%となっている。



(n=1,342)

41

2 市民対象調査 結果詳細

【参加したい地域の集いの場(複数回答)×性別】

性別でみると、

・男性の参加したい集いの場は「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場(32.1%)」「参加したくない(18.5%)」「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場(18.5%)」「多世代交流のできる集いの場(15.4%)」の順に多い回答であった。

・女性の参加したい集いの場は「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場(31.0%)」「介護予防・健康づくりのための集い(17.8%)」「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場(16.3%)」の順に多い回答であった。

	回答数	要介護状態や認知症になっても集える場	介護する人が困り事や悩みを気軽に相談できる集いの場	高齢者の集いの場	介護予防・健康づくりのための集いの場	多世代交流のできる集いの場	食を添じた交流の場(子ども食堂など)	子育て世代が集える場	障害のある人が集える場	趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場	生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場	その他	参加したくない	無回答
男性	520	9.2	8.7	11.3	12.3	15.4	9.6	8.7	3.3	32.1	18.5	2.5	18.5	11.5
女性	803	15.3	13.7	15.4	17.8	12.2	11.1	10.5	4.1	31.0	16.3	3.1	14.4	9.5

(n=1,342)

42

2 市民対象調査 結果詳細

【参加したい地域の集いの場(複数回答)×年齢】

年齢別でみると、

・20歳代～74歳までの各年代別で「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場」の回答が3割台を占めていた。

・75歳以上になると「高齢者の集い(28.0%)」がどの年代よりも割合が高かった。

	回答数	要介護状態や認知症になっても集える場	介護する人が困り事や悩みを気軽に相談できる集いの場	高齢者の集いの場	介護予防・健康づくりのための集いの場	多世代交流のできる集いの場	食を添じた交流の場(子ども食堂など)	子育て世代が集える場	障害のある人が集える場	趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場	生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場	その他	参加したくない	無回答
20歳代	79	7.6	8.9	3.8	5.1	10.1	17.7	22.8	3.8	36.7	21.5	3.8	17.7	3.8
30歳代	153	5.2	8.5	3.9	5.2	16.3	17.6	35.3	3.9	37.3	9.8	1.3	22.2	3.9
40歳代	225	7.1	13.8	4.4	9.8	19.1	19.6	18.2	4.4	30.7	21.3	4.4	14.2	6.7
50歳代	172	13.4	16.9	11.0	14.0	19.8	8.7	4.7	4.7	31.4	18.6	2.3	16.9	7.0
60歳～64歳	109	11.0	14.7	6.4	23.9	18.3	9.2	2.8	2.8	34.9	14.7	2.8	16.5	10.1
65歳～69歳	151	10.6	10.6	14.6	21.9	11.9	8.6	1.3	3.3	39.1	15.2	1.3	15.2	12.6
70歳～74歳	144	13.9	8.3	23.6	22.9	11.8	4.2	0.7	2.8	32.6	20.8	2.8	13.2	11.8
75歳以上	296	24.0	10.8	28.0	18.9	4.4	3.4	0.7	3.7	21.3	15.9	3.4	15.5	18.2

(n=1,342)

2 市民対象調査 結果詳細

【参加したい地域の集いの場(複数回答)×家族構成】

⇒「単身」の世帯の方の「要介護状態や認知症になっても集える場」と回答する割合が、他の世帯の割合に比べて多かった(23.7%)。

【参加したい地域の集いの場(複数回答)×同居家族】

⇒「介護を必要とする方がいる」世帯は「要介護状態や認知症になっても集える場」(24.8%)、「介護する人が困り事や悩みを気軽に相談できる集いの場」(22.1%)の順に多かった。

⇒「障害のある方がいる」世帯は「要介護状態や認知症になっても集える場」(21.9%)、「参加したくない」(21.2%)の順に多かった。

【参加したい地域の集いの場(複数回答)×経済】

⇒「大変苦しい」世帯は「参加したくない」を選択する割合が他の経済状態に比べて多かった(25.9%)。次いで「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場」(19.9%)、「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場」(16.9%)の順に多かった。

⇒「やや苦しい」世帯は他の経済状態の世帯の選択と同様で「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場」(33.2%)、次いで「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場」(19.9%)、「介護予防・健康づくりのための集いの場」(17.3%)の順に多かった。

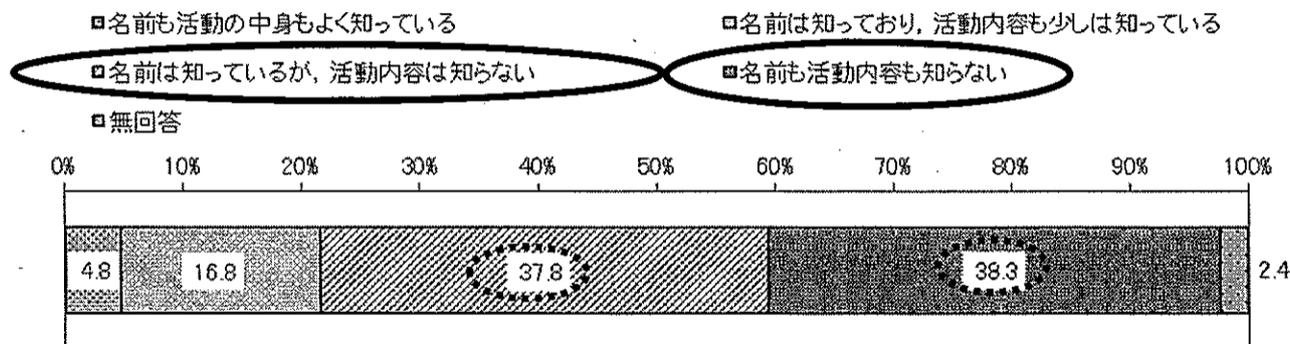
44

2 市民対象調査 結果詳細

指標(基本目標5)

【市社協の周知度】

「名前も活動内容も知らない」が38.3%、次いで「名前は知っているが、活動内容は知らない」が37.8%、「名前は知っており、活動内容も少しは知っている」が16.8%となっている。



(n=1,342)

3 市民対象調査結果 考察

46

地域福祉に関する調査結果 考察

・平成24年の調査結果と比較して、「地域での助け合いの現状」の「(お互いに助け合いができています)大変思う」「思う」割合(40.5%⇒26.9%)と、「今後の地域活動への意向」の割合(69.6%⇒43.1%)は低下している。また、住民同士の助け合いについて「必要だと思う」「あった方が良く」と思う割合(88.6%⇒80.9%)や、地域の活動やボランティア活動へ「参加している」割合(17.2%⇒16.8%)は微減している。

・「地域での助け合いの意識」に関する項目をみると、「関わりたくない」の回答は全体の1.6%であり、一方、回答者の25.7%が頼まれれば支援者となる可能性があり、また、14.7%が仲間づくりや支援方法を具体的に伝えることで支援に参加する可能性があることが分かった。

このことから、本市には潜在的な地域福祉の担い手がまだまだ眠っているものと思われ、支援を必要とする方の現状を伝え、活動希望内容と地域活動とのマッチングを実施していく必要がある。

また、一方で、23.2%の方が「自分自身に余裕がなく、誰かを支援できない」と答えており、支援をする方の生活状況やライフステージ等に配慮した具体的な活動(例えば「見守り・声かけ」など)の提案をしていくことも重要である。

・市社協の周知度に関しては、少しずつ増加(平成24年:17.6%⇒平成30年:21.6%)しているものの、十分ではなく、今後も地域福祉活動を推進していく市社協の役割と、その活動を継続して周知していく必要がある。

47

2. 在宅医療・介護連携推進事業

＜施策 2-3 重度の要介護状態になっても安心して暮らし続けられる支援＞

在宅医療・介護連携推進事業について

平成30年10月29日
高知市

1. 高知市の取り組み ～平成28-29年度～

<p>I 医療・介護関係者の相談とコーディネート 【高知市医師会へ委託】</p>	<p>★「高知市在宅医療介護支援センター」の運営(H28.6.1～) ★「高知市在宅医療介護支援センター」のホームページの運用(H29年度～)</p>
<p>II 地域の医療・介護サービス資源のマップ作り 【センター業務(高知市支援)】</p>	<p>★地域の医療機能の把握・マップ化 ⇒「訪問診療・往診を行っている医療機関ガイド(診療所・病院)」作成【H28年度】 ★社会資源の情報収集(実態調査含む)・課題抽出 ⇒「医療ニーズの高い人の受け入れができる居宅サービス事業所ガイド」作成【H29年度】</p>
<p>III 在宅医療・介護の連携の仕組みづくり 【高知市業務(センターと連携)】</p>	<p>★「入・退院時の引継ぎルール」策定(H29.7.1～運用開始) ★「入・退院時の引継ぎルール」点検協議の開催(H30.2月 第1回開催)</p>
<p>IV 在宅医療・介護関係者への研修 【センター業務(高知市支援)】</p>	<p>★在宅医療介護に関する普及・啓発 ⇒多職種研修会の開催(H28年度～:年1回開催)</p>
<p>V 地域住民への普及啓発 【高知市業務(センターと連携)】</p>	<p>★出前講座の実施(H29年度～) ★在宅療養に関する市民調査(h29年度)</p>
<p>VI 在宅医療・介護連携推進委員会の設置 【高知市業務】</p>	<p>★在宅医療・介護連携推進委員会の開催(H28年度:1回・H29年度:2回) ⇒関係機関の在宅医療・介護連携に関する取り組み状況調査(H29年度) ⇒課題抽出と解決策の検討(ワールドカフェ)</p>

- (1) 医療・介護関係者の相談とコーディネート
 (2) 地域の医療・介護サービス資源のマップ作り

「高知市在宅医療介護支援センター」の運営【高知市医師会へ委託】

- >機能 : 在宅医療と介護連携に関する相談窓口
 >対象 : 医療機関, 介護事業所 等
 >場所 : 高知市本町5丁目2番20号 城麓ビル2F西
 >開所日 : 月～金曜日(9:00～17:00) 土曜日(9:00～12:30)
 >スタッフ : 相談員2名(ケアマネ資格のある看護師1名, メディカルソーシャルワーカー1名)
 >業務内容

① 相談・コーディネート業務	★関係機関訪問及び関係機関からの相談への個別対応 ★地域医療カンファレンス, 居宅介護支援事業所協議会等関係機関の会への随時出席
② サービス資源のマップ作り	★病院・診療所・介護保険事業所等へのアンケート調査 ★訪問による詳細の聞き取り実施 ★「医療機関ガイド」「居宅サービス事業所ガイド」の作成
③ 在宅医療・介護関係者の研修	★多職種研修会の開催
④ 市民啓発	★出前講座の実施
⑤ 在宅医療・介護の連携システムの構築支援	★在宅医療介護連携推進委員会への出席 ★高知市入退院時の引継ぎルール運用への協力

高知市在宅医療介護支援センター



高知市医師会に委託して平成28年6月に設置



高知市往診・訪問診療を行っている 医療機関ガイド

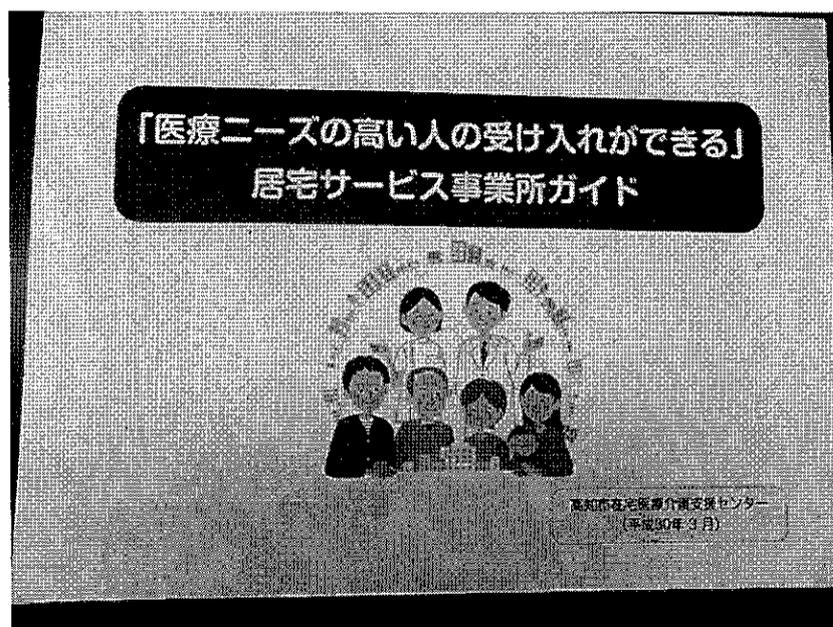


市内

5 1 診療所

1 2 病院

高知市医療ニーズの高い人の受け入れが できる居宅サービス事業所ガイド



市内

1 6 1 事業所

(3) 在宅医療・介護の連携の仕組みづくり

入・退院時の引継ぎルールの運用

ルール策定の目的：入院から在宅療養へ移行するにあたって、切れ目なくサービスを提供するために必要な連携のひとつとして、病院とケアマネジャーの間での入退院時の引継ぎがあります。その引継ぎについてのルールを策定することで、病院とケアマネジャーが顔の見える関係を作り、患者さん・利用者さんが円滑に在宅療養へ移行できることを目的としています。

運用開始：平成29年7月1日

*平成30年度は半年ごとにルールの点検協議を行う予定

協力病院・事業所：

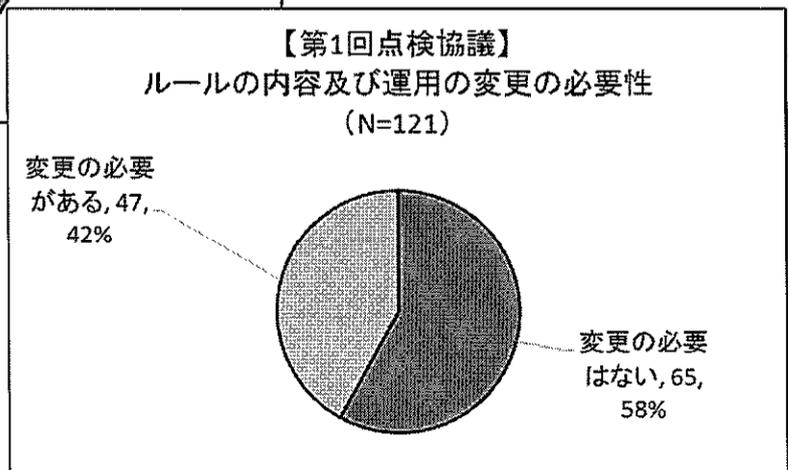
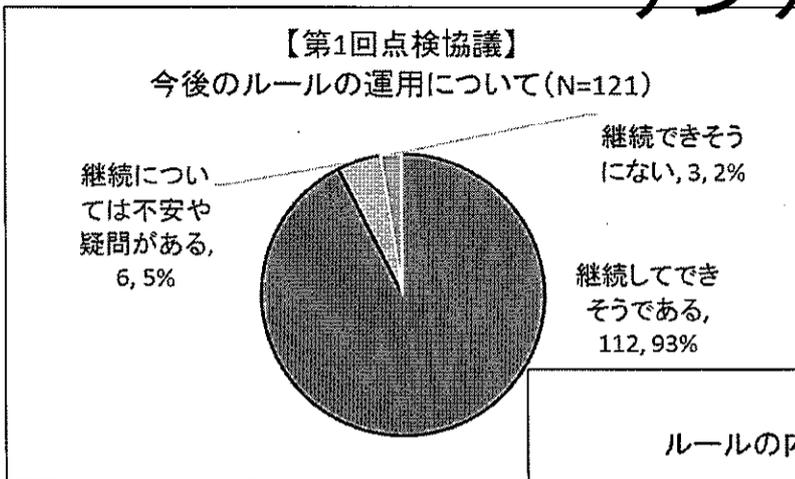
- 病院 ⇒第2回点検協議時点の協力病院：56病院/62病院
(平成30年10月12日時点)
 - ケアマネジャー ⇒第2回点検協議時点の協力予定事業所：135事業所
(平成30年7月5日時点)
- *看護小規模多機能型居宅介護事業所3事業所
*小規模多機能型居宅介護事業所17事業所

高知市入・退院時の引継ぎルール策定事業 策定及び運用経過

	開催日	参加者数
病院説明会	平成29年1月26日	病院担当者48病院97名
	平成29年4月24日	看護部長等48病院54名
ケアマネジャー協議	第1回(平成29年1月10日)	居宅介護支援事業所ケアマネジャー131名
	第2回(平成29年2月9日)	居宅介護支援事業所ケアマネジャー126名
	第3回(平成29年3月6日)	居宅介護支援事業所ケアマネジャー 99名
	第4回(平成29年5月17日)	居宅介護支援事業所ケアマネジャー123名
病院・ケアマネジャー 合同協議	平成29年3月10日	病院担当者 45病院 78名 居宅介護支援事業所ケアマネジャー 20事業所20名 高齢者支援センター 7名
	平成29年6月15日	病院担当者 51病院 85名 居宅介護支援事業所ケアマネジャー 19事業所19名 高齢者支援センター 5名
病院・ケアマネジャー 合同説明会	平成29年6月28日	病院担当者 48病院 97名 居宅介護支援事業所ケアマネジャー 100事業所127名 高齢者支援センター 6名 看護小規模多機能型居宅介護事業所 2事業所2名 小規模多機能型居宅介護事業所 15事業所19名
病院・ケアマネジャー 点検協議	平成30年2月19日	病院担当者 49病院 79名 居宅介護支援事業所ケアマネジャー 39事業所43名 高齢者支援センター 8名 看護小規模多機能型居宅介護事業所 1事業所1名 小規模多機能型居宅介護事業所 7事業所7名



第1回 点検協議の アンケート結果より



(4) 医療・介護関係者への研修

在宅医療・介護に関する普及啓発

◆ 平成28年度

- 医療・介護関係者を対象とする高知市医師会主催の研修会「地域医療カンファレンス」において高知市の取組みについて報告（北部・東部の2か所）
- 高知市居宅介護支援事業所協議会・高知県訪問看護ステーション連絡協議会と連携して共催研修会

- ▶対象 : 医療・介護関係者（参加人数：153名）
- ▶場所 : ふくし交流プラザ
- ▶開所日 : 平成29年3月11日(土)
- ▶内容 : ○高知市の取組み報告（健康福祉総務課）
○講演会（NPO法人「このゆびとーまれ」理事長 惣万佳代子氏）
○意見交換

◆ 平成29年度

- 第1回高知市在宅医療・介護連携推進のための多職種研修会

- ▶対象 : 医療・介護関係者（参加人数：192名）
- ▶場所 : 総合あんしんセンター
- ▶開所日 : 平成29年12月2日(土)
- ▶内容 : ・講演『人生のものがたりを大切に ～人と地域をつなぐ～』
（富山県砺波市 ものがたり診療所 医師 佐藤伸彦氏）
・パネルディスカッション
『高知市での実践報告 ～在宅療養・看取りへの支援』



- 第1回高知市在宅医療・介護連携推進のための多職種研修会

(5) 地域住民への普及啓発

在宅医療・介護に関する普及啓発

◆ 平成28年度

- 高知市民生委員児童委員協議会連合会の会長・副会長合同研修会において、本事業についての研修会実施（看取りについてのアンケート実施）

- ▶ 対 象 : 各地区会長・副会長（対象者数：80名）
- ▶ 場 所 : 高知市総合あんしんセンター 3F
- ▶ 開 所 日 : 平成29年1月6日(金)
- ▶ 内 容 :

- 高知市の取組み（健康福祉総務課）
- 「在宅医療」についてのDVD
- 在宅医療の現場実態の報告（訪問看護ステーションあたご）

◆ 平成29年度

- 出前講座（平成29年度から開始）

高知市在宅医療介護支援センター，高知市で協働

- ▶周知方法：高知市広聴広報課作成「あなたに届け隊 出前講座」に掲載（H29.4月～）
- 高知市健康福祉総務課ホームページ（H29.7月～）
- 高知市医師会ホームページ（H30.2月～）

【平成29年度実績】

実施件数：9件

参加者数：210名（30代～90代）

申 込 者：町内会，デイサービス，企業主催の退職者向け講座，ふれあいサロン 等

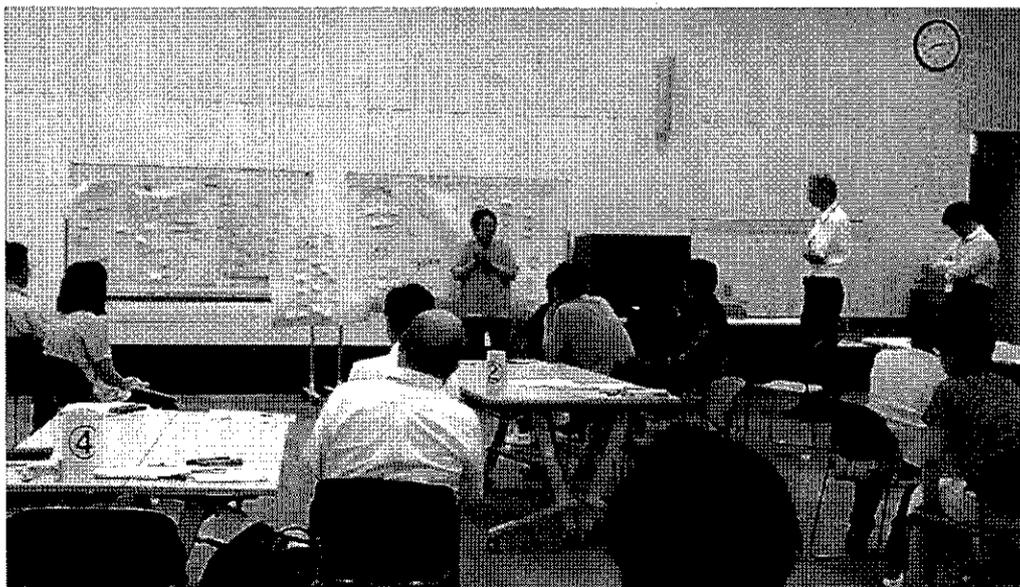


○ 出前講座

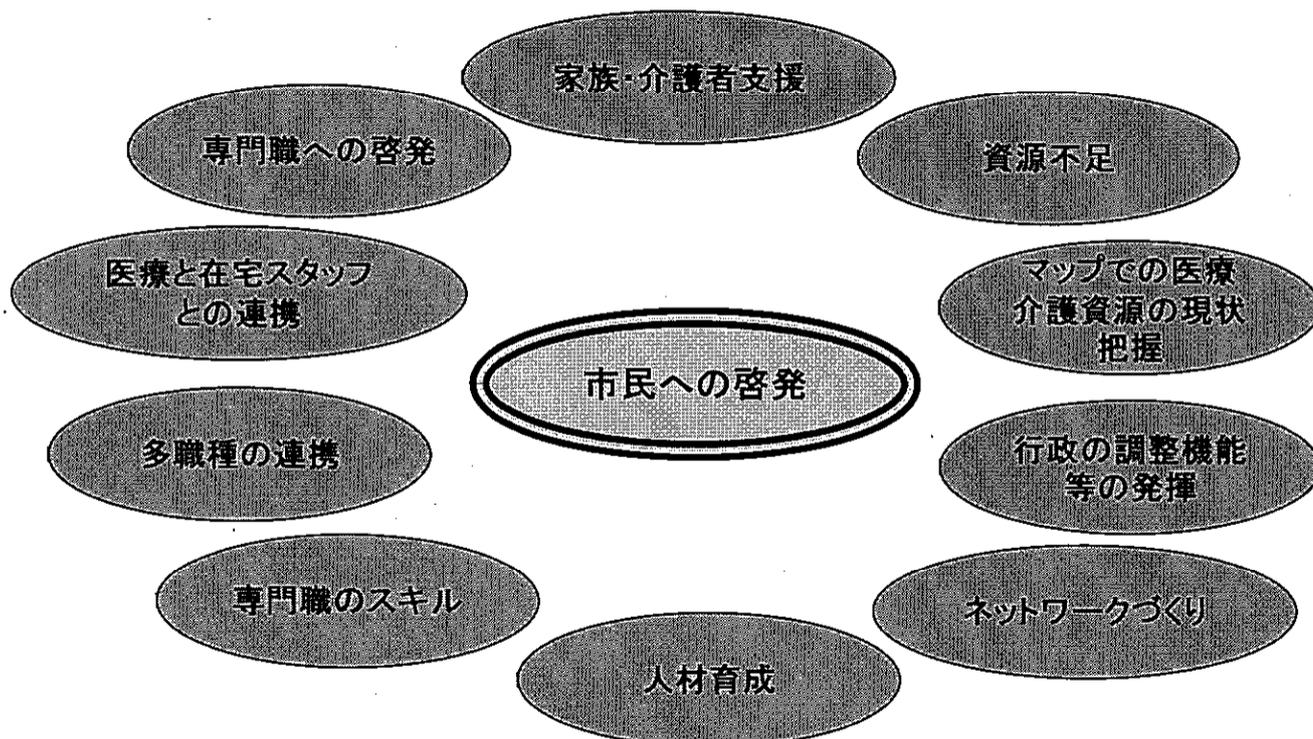
(5)在宅医療・介護連携推進委員会の設置

在宅医療・介護連携推進委員会(平成29年3月設置)の開催

- 目的 : 医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- 内容 : 在宅医療・介護連携に関する現状を把握し、課題抽出・連携推進の方策を検討し、委員会に参画する団体が連携して推進に取り組む。年2回開催予定。
【実績】平成28年度：1回開催(平成29年3月22日)
平成29年度：2回開催(平成29年8月30日・平成30年3月6日)
※別途意見交換会開催(平成29年11月6日)



〈高知市における在宅医療・介護連携に係る課題〉
平成29年8月30日開催 推進委員会



2. 平成30年度 高知市の取り組み

I 医療・介護関係者の相談と コーディネート 【高知市医師会へ委託】	★「高知市在宅医療介護支援センター」の運営 ★「高知市在宅医療介護支援センター」のホームページ作成
II 地域の医療・介護サービス資源の マップ作り 【センター業務(高知市支援)】	★地域の医療機能の把握・マップ化 ★社会資源の情報収集(実態調査含む)・課題抽出
III 在宅医療・介護の連携 の仕組みづくり 【高知市業務(センターと連携)】	★入・退院時の引継ぎルール運用(平成29年7月運用開始) ★入・退院時の引継ぎルール点検協議の開催 ⇒平成30年10月12日:第2回点検協議開催(6ヶ月に1回開催予定)
IV 在宅医療・介護関係者への 研修 【高知市業務(センターと連携)】	★在宅医療介護に関する普及・啓発 ⇒平成30年12月1日:第2回 高知市在宅医療・介護連携のための 多職種研修会の開催
V 地域住民への普及啓発 【高知市業務(センターと連携)】	★出前講座の実施 配布チラシ参照
VI 在宅医療・介護連携推進委員 会の開催 【高知市業務】	★在宅医療・介護連携推進委員会の開催 →関係機関の在宅医療・介護連携に関する取り組み状況調査 (H30年度) 新規 →在宅療養の啓発冊子等の作成(ワーキンググループにて検討)
VII その他	★社会資源システム導入準備 新規

出 前 講 座

- 平成29年度から開始
高知市在宅医療介護支援センター, 高知市で協働
- 周知方法: 高知市広聴広報課作成「あなたに届け隊 出前講座」に掲載 (H29.4月~)
高知市健康福祉総務課ホームページ (H29.7月~)
高知市医師会ホームページ (H30.2月~)
- 実施内容: 在宅療養に関する下記の内容をビデオと資料等で説明
 - ①在宅療養とは
 - ②在宅療養が必要になったときには
 - ③在宅療養生活を支える人たち
 - ④在宅療養に関わる保険制度と費用負担
 - ⑤仕事と介護の両立
 - ⑥介護保険サービス利用の流れ
 - ⑦介護保険サービスの種類
 - ⑧在宅療養についての相談先 等

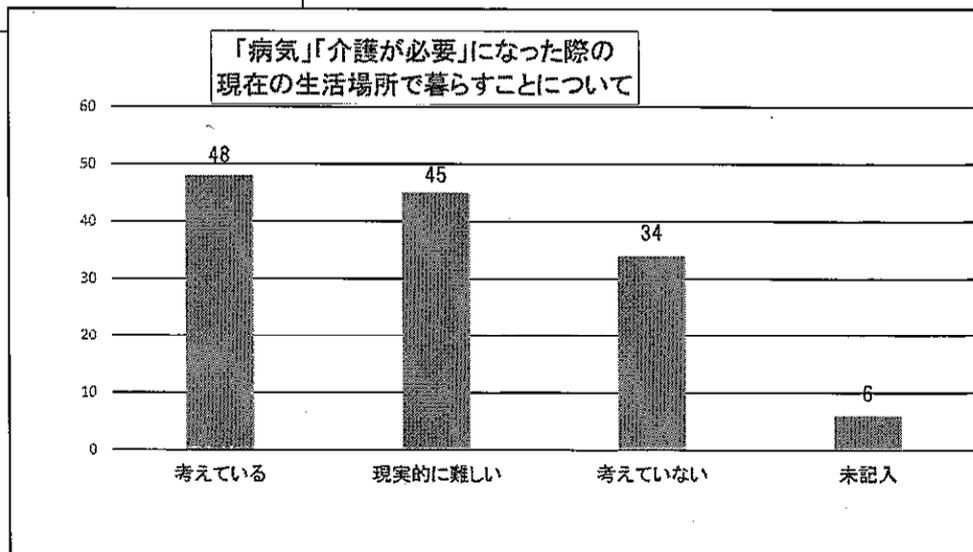
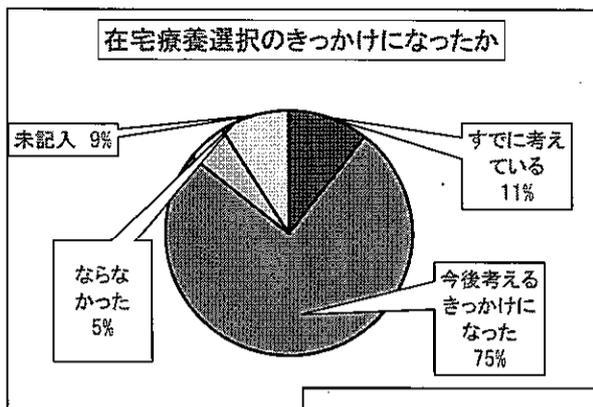
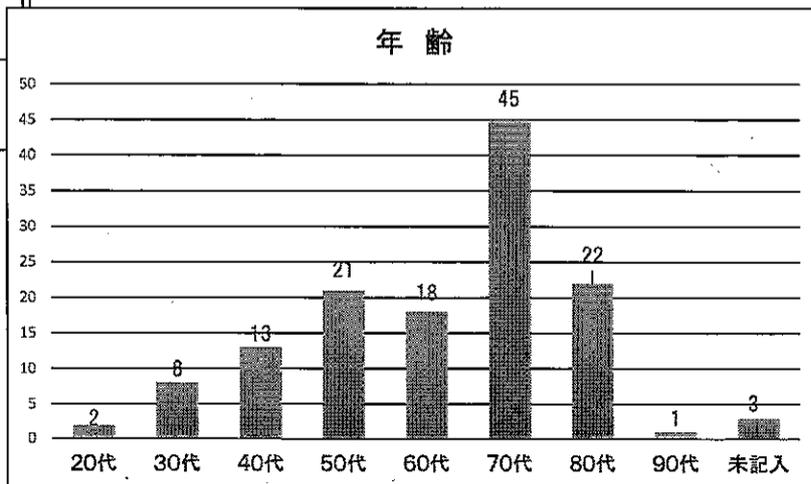
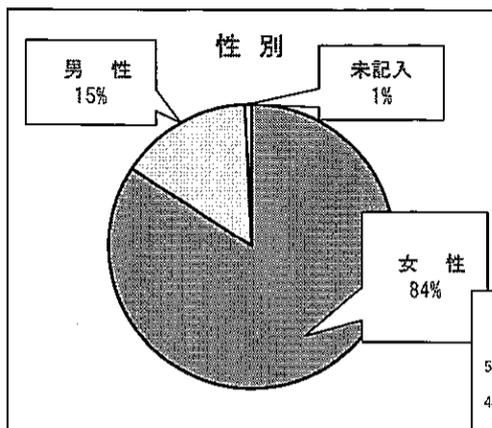
【平成30年度実績(4月~10月)】

実施件数: 8件

参加者数: 292名 (20代~90代)

申込者: 住民向け市政学習会, 人権啓発推進委員会, 企業主催の健康フェスタ,
いきいき百歳体操会場, 市教研給食部会, 老人クラブ連合会, 町内会, コ
ミュニティ計画推進市民会議

<出前講座アンケート結果（平成30年4月～10月）> 参加者292名 アンケート回収133名



在宅療養の啓発冊子等の作成（案）

【目的】啓発・周知

- ⇒市民が在宅療養等を選択肢の一つとして選べるための啓発・周知
- ⇒専門職が在宅療養等のイメージができ、市民に説明できるための啓発・周知

【配布対象】

- 入院した際に今後の生活をどうしていいか迷っている人
- 在宅生活・在宅療養が可能な状態にも関わらず諦めている人
（例：一人暮らし、家族の反対、訪問看護等在宅療養の支援体制について知らない等）
- 在宅生活・在宅療養が可能な状態の患者に関わる専門職
（例：在宅療養へつなげた経験が少ない専門職）

【掲載事例（案）】

事例①：共働き子世帯（親：認知症）

事例②：高齢夫婦（夫婦ともに認知症・服薬の課題あり・近所の人の見守り等支援あり）

事例③：独居（脳血管疾患・車椅子使用）

家族の体験談①：看取りしたケースや最期まで地域での生きがいにつながる活動をしていたケース等

家族または本人の体験談②

：がん患者等現在療養をしているケース

⇒在宅療養を考えたきっかけ、在宅療養を考えた時に感じた不安・心配事等、今後、在宅療養を検討する方々へお伝えしたいこと

3. 事業所の職場環境の改善への 取り組み

『こうち介護カフェ VOL. 1』実施結果報告書

記

- 1 **日時** 平成 30 年 9 月 21 日（水）14:30～16:00（14:15～受付）
- 2 **場所** 現代企業 メフィストフェレス 3 階
（高知市帯屋町 2 - 5 - 23 大橋通り商店街西詰）
- 3 **参加者** 61 名（定員を約 50 名で設定）
（内訳：高知市内の介護事業所職員，高知県立大学学生（6 名））
- 4 **内容** 介護保険課長挨拶
Ⅰ 講演「高知の介護人材の現状と今後について」（約 15 分）
～～注文した飲み物を配布～～
Ⅱ グループワーク「～みんなで話そう！高知の介護～」（約 60 分）
アンケート

5 要旨

『こうち介護カフェ』は、高知市高齢者保健福祉計画・第 7 期介護保険事業計画に掲げた、介護人材の離職防止・新規人材の確保に向けた取り組みの一つであり、普段はつながりのない他事業所の職員等と日頃の悩み等を共有し、“つながりをつくる場”となることを目指し開催しました。

第一回目となる今回は、初対面でも話しやすい環境にするため、実際のカフェを開催場所とし、また、初回は“まずは来てよかった”と思ってもらえるような場となるよう、介護事業所有志 8 名と企画段階からともに準備し、グループワークでは、6～8 名グループの 9 つに分け、複数のお題を各グループで引いてもらいながら、自由に話してもらおうという方法で行いました。

参加者からは、「コーヒーが美味しかった」、「さまざまな人と情報交換ができてよかった」、「いろいろな話がきけてよかった」など、一定の評価をいただきました。

6 添付資料

- 当日写真
- 新聞記事
- アンケート集計結果

当日写真



介護職 やりがい語り合う

高知市の「カフェ」に60人

高齢者施設などで働く介護職員たちに事業所の垣根を越えて親睦を深めてもらおうと、高知市は21日、同市内の喫茶店で「こうち介護カフェ」を初めて開いた。20～50歳代の介護福祉士やケアマネジヤール約60人が仕事の

やりがいなどを和やかに話し合った。県の推計では、「団塊の世代」が75歳以上となる2025年に県内の介護人材は1064人不足するとされ、一方、県内の介護職の離職率は15年度15・8%で上昇傾向にある。

この日、参加者たちは数人ずつのグループに分かれ、「介護の仕事に就いたきっかけ」などのテーマでフリートーク。「利用者さんに『ありがとう』と言ってもらえるとやりがいがある」「給料を上げて、有給休暇を使えるようにしてほしい」などと話し合った。

介護カフェは、人材確保を目指す「職員同士のつながる場をつくろう」と市が民間有志数人と企画。市内で働く職員や大学生らを対象に、本年度中に計4回開く。



介護職が話し合う様子

介護福祉士の宮地真樹さん(40)は「よその事業所の人の意見を聞けたし、介護以外の趣味の話とかもざっくばらんにできて楽しかった。また参加したいです」と笑顔で話していた。

(山本 仁)

介護の仕事語り合う

市川三四助さんと翔 約750人の観客から

市川三四助さんと翔 約750人の観客から

市川三四助さんと翔 約750人の観客から

介護について話し合うイベント「こうち介護カフェ」が21日、高知市内のカフェで初めて開かれた。介護職や介護を学ぶ学生など約60人が参加し、やりがいや目先の悩みなどを共有した。

【松原由佳】



従事者や学生が「カフェ」

県内では生産年齢人口が減り、介護職の新たな人材確保が難しくなる一方、低賃金などを理由に離職率が高い。そこで高知市介護保険課は、事業所を超えて介護職の人々が互いに支えあえる場をつくらせたいと、今後は2カ月に1度

高知市 人材確保目指し企画

ながら、悩みを相談できる場を作ろうと「こうち介護カフェ」を企画した。こうち介護カフェでは、数人ずつのグループに分かれ、グループワークを行った。「あなたにとって介護と」他の研修と違い、フリー

介護職が話し合う様子

「こうち介護カフェVol1」参加者アンケート結果

① 介護カフェを知ったきっかけは何ですか？

1	会社の上司から聞いた	21
2	学校の先生から聞いた	2
3	チラシを見た	2
4	知人から聞いた	1
5	その他	7

・事業係からのTEL ・高知市からのFAX など

- ・1及び5のほとんどは、事業係からの案内により参加した方と推測できる。
- ・次回からは、より幅広い層の参加者の確保を目指し、一般への広報を強化・工夫する必要がある。

② 今回の「こうち介護カフェ」の印象について

○よかった点

1	様々な人と情報交換ができよかった など	20
2	フランクに話せた。話しやすかった など	5
3	その他	4

・若者の意見がフレッシュでよかった
・思った以上に盛り上がった など

○よくなかった点

- ・よくなかった点の記載があったのは二人のみ。
「時間が短かった」「もう少し深い話でも」との意見
- ・全体として、様々な人との繋がりや話しやすい雰囲気には**好印象を持っていただけた。**
- ⇒ 次回、このまま”楽しかった”路線を継続するか、もう少し”深い話”に視点を移すのか、要検討

③ 講演について

○よかった点

時間的にも端的で良かった。
紙のまとめ方が分かりやすかったです。
和む音楽が良かった。ぜひサザン聴かせて下さい
分かりやすかった。
司会の方がしっかり打ち合わせも出来ていてスムーズだった。
色々な話が聞けて良かったです。
短くて良い
いろんな話が聞けたこと

○よくなかった点

もう少し詳しく内容が聞きたかったけど、時間はちょうど良かった
まわりの声で聞きづらかった。
もう少し時間と説明が欲しかった。

- ・意見の記載が少なかったが、一定の評価はいただいた。次回、講演実施の有無を含め要検討

④グループワークについて

○よかった点

意見が思ったより出た
和気あいあいな雰囲気が出来ました。介護以外の質問もあり、、、
少人数で話ができしたのは良かった
お題がユニーク 構成もよく考えて下さっていて楽しかったです。
これだけのくじを作るのはさぞ大変だったと思います。ありがとうございました。
色々な意見がきけた
様々な方と知り合えて良かった。
話が広がり良かった。
一つの議題に対して色々な意見が聞けたこと
テーマがあって話しやすかった
色々な話もでき、時間が合えば参加出来たらと考えます。
ガードトーク
人数、会場の大きさや少しせまいくらいが顔を見て話ができが良い。
職種問わず(年齢)話せた。
色々な意見を聞けたので良かった。
時間がたつごとに話が広がり楽しく思えた。
変わった話題もあったので、面白かったです。
グループの中にお助けマンがいたことが良かった。

○よくなかった点

もう少し広い場所でなければ、ほかのグループの会話で集中できなかった。
人見知りしかいない場所があるかもしれない
大勢での会話だったので個々の話が聞きとりづらいところがあった。
人数が多い

- ・概ね、楽しんでいただけた。グループの人数割、他のグループとの距離感など、次回検討。
- ・また、グループワークの内容も、次回に向けて、より工夫が必要。

⑤開催時間・場所について

○よかった点

時間	時間帯がよかった
	17時から親睦会は時間的に早いのでは？
	参加しやすいです。
	もう少し長くてもいいかなと。他にいろいろその職場での取り組みとか聞きたかった。
	とても好きな雰囲気のお店で良かったです。高知の魅力的なお店を紹介していただいて感謝です。
場所	研修会場etcより気がまぎれる雰囲気で良かったです。
	参加しやすいです。
	丁度良い広さだった
	分かりやすい
	色々な方に出会えて良かった。
良く来る店なので、場所がわかりやすかった。	
分かりやすい場所で良かった。	

○よくなかった点

場所	もう少し広ければ・・・
	駐車場が近くにいいのがない。
	これぐらいの人数ならもう少し広い場所でも良いのでは？
	デブにはせまいです。

- ・職場からの指示で職務として参加された方が多いためか、時間帯について、反対意見はなかった。
- ⇒ 公式外の話では、昼間より夜間の開催の方がよいとの意見が多数あり、次回要検討。
- ・場所については、駐車場・広さなどについて、次回、改善が必要。

⑥その他

・次回婚活パーティーになる場合は、バツイチシニアバージョンもあるとよいかもしれませんね。
・自分のトーク力を磨きたいなあと思いました。・グループ名が分かりにくかったかも？

初めてグループワークに参加させて頂き、年齢や職種の違った方々と話できて交流含めとても良かったです。

また参加したいです。いろんな方と知り合えるので良いです。企画準備などお疲れ様でした。

又、介護についての高知ならでの介護をしていきたい

皆さんの話が聞けて良かった。

勉強になりました。

短い時間でしたが、わいわいがやがやできて楽しかったです。

良い経験になりました。また参加できるでしたら参加させていただきます。ありがとうございました。

私自身は現場の人の声が聞こえて良かったです。

Fグループは管理者の方ばかりだったので若手の方や経験年数の浅い方の意見や声が聞こえなかったのは残念です。

皆の意見として学校を卒業してすぐ入職しているひとのいる職場はなく新人を育成する難しさなど聞きました。

●まとめ

・「また参加したい。」「参加する」との意見があったことは、”まずは”「楽しかった」「来てよかった」「明日からまた頑張ろう」と思っていたくことを目的とした今回のコンセプトを一定達成できたことの表れだと考える。

・アンケート結果もほとんどがポジティブなものであり、第1回目としては、成功と考えてよい。

・公式外では、駐車場や開催時間帯について、多くご意見をいただいております。次回に向けては検討が必要。

・講演については、行うこと自体の是非を含め、検討が必要。

・グループワークは、このままの路線を継続するのか、もう少し「深く学べる」機会とするのか要検討。

・何より今回は、事業所へのローラー作戦により、参加者がある意味、無理に集めており、次回は、より早い段階での広報を行うとともに、広報の方法自体も工夫する必要があります。

4. 地域密着型サービスの整備状況

平成30年度高知市地域密着型サービス募集に関する応募状況と今後の対応

1. 第7期介護保険事業計画に係る施設整備計画

圏域	H30			H31			H32	
	認知 デイ	定期 巡回	GH	小多機	看多機	密着 特定	老健	
東部	1			1			80床	80床
西部		1	1(※)		1			
南部		1	1(※)					
北部				1(※)	1	1		

※は、認知デイとの共用型を整備

2. 平成30年度募集サービスと応募の状況（概要）

- ・認知デイ及び定期巡回は、応募なし
- ・グループホームは、
西部は、1法人から応募あったが取り下げ
南部は、3法人から応募あり、うち1法人取り下げ(結果2法人が競合)

<随時指定>
(有)ナースケア
H30.9.1指定
春野町南が丘

年度	事業の種類	圏域				応募結果
		東	西	南	北	
30 年 度	認知デイ	0				なし
	定期巡回		0	0(※)		なし
	GH		0(※)	2(※)		南部(2) 西部(なし)

<応募法人>

①-A法人(福井町)

※整備する建物の所有者が、第三者となっていたものが、補助金の交付対象とならない旨説明後、辞退。法人も了承済み。

<応募法人>

1 (株)アイ・エム・シーライフステージ(竹島町)

2 社会福祉法人香南会(長浜)

③-B法人(南河ノ瀬町)

※整備予定地が、土砂災害警戒区域のため、辞退

3. 今後の対応(案)

応募のなかったサービスは、再募集することとなる。

再募集の時期については、市内に事業所のある法人に意向を調査し、決定する。

案1：30年度に再募集

再募集を行う場合のスケジュール案

10月26日(金)	募集要領公表
10月29日(月)～11月09日(金)	質問受付期間
11月12日(月)～11月30日(金)	応募期間
12月下旬	ヒアリング
1月頃	プレゼン審査
2月頃	整備許可決定

案2：31年度に再募集(一部)

31年度に再度募集。

募集することを早めに公表し、法人への時間的猶予を確保することで、応募しやすい環境を整える。

一部のサービスについては、サテライトの設置許可方針と合わせながら、整備の達成を目指す。

本市に事業所のある全法人に意向調査し、決定する

5. 高齢者支援センター再編・強化

資料 1 参照

参考資料：

1. 高知市高齢者保健福祉計画
(平成 27～29 年度) 重点施策の
結果

高知市高齢者保健福祉計画(平成27～29年度)重点施策の結果

指標に対する実績値 (★は平成29年8月現在、指標を達成しているもの)

1 自立した生活をめざした支援

	男性	女性
65歳の平均自立期間 (65歳の人が必要介護2の状態になるまでの期間)	指標(平成28年) 17.8年	20.8年
	平成26年 17.31年	★ 20.95年
	平成27年 17.49年	★ 21.10年
	平成28年 17.45年	★ 20.90年

※平成28年度数値は統計データの関係により平成29年度中に計測予定

	指標 (平成29年度)	一般高齢
高齢者の自覚的健康感の向上 ※平成23年度・平成26年度 :自覚的健康感が「よい」「まあよい」「ふつう」の割合	80%	
※平成29年度 :認定を受けていない者(N=2,416)の自覚的健康感が「とてもよい」「まあよい」の割合	77.6%	75.7%

※平成26年度と平成29年度では設問及び回答内容が少し異なる

1-1 自立支援の理解促進

	指標 (平成29年度)
市民に対する「自立支援」啓発リーフレットを活用した普及啓発活動数	300回以上 平成27年度 319回 平成28年度 226回 平成29年度 133回 ★※3年間総数 678回

	一般高齢者	要支援認定者
高齢者保健福祉に関するアンケート調査で「介護保険制度の趣旨を理解している」人の割合及び「自立支援の考え方を理解している(質問新設)」人の割合	80%	70%
	平成26年度 70.5%	61.6%
	平成29年度	—

※平成29年度は調査の設問内容変更により数値なし

1-2 自立をめざすケアマネジメントの実施

	実施件数	点検件数	ピアリング件数
ケアプランの点検: 市内の全居宅介護支援事業所に 対して実施	81件 (23事業所)	71件 (28事業所)	3件 (3事業所)
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	122件 (56事業所) ★※全居宅介護支援 事業所実施	20件 (16事業所)	20件 (20事業所)

	要支援1		要支援2	
	改善	維持	改善	維持
新規要支援認定者 で介護予防サービス 利用者の認定更新 時の維持改善率	7%	80%	30%	55%
	平成27年度末 1.2%	69.2%	24.8%	★ 56.8%
	平成28年度末 1.8%	68.6%	29.4%	★ 55.0%
	平成29年度末 0.8%	66.5%	28.8%	★ 57.1%

1-3 自立をめざす介護予防サービスの提供

	改善	維持
通所型介護予防サービス利用者のうち認定更新時に介護度が改善している割合	10%以上	78%以上
	平成27年度末 7.6%	65.9%
	平成28年度末 7.6%	66.3%
	平成29年度末 7.2%	67.0%

1-5 介護サービスの質の向上
自立をめざすケア研修

	指標(平成29年度)
日中おむつ使用率2割以下の研修参加施設の割合	90%
	平成27年度(N=13) 84.6%
	平成28年度(N=21) 71.4%
	平成29年度(N=10) 78%

※実績は、認知症対応型共同生活介護事業所のみの数値

	指標(平成29年度)
平均水分摂取量 1500cc以上の研修参加事業所の割合	40%
	平成27年度(N=13) ★ 61.5%
	平成28年度(N=21) ★ 42.8%
	平成29年度(N=10) ★ 50%

※実績は、認知症対応型共同生活介護事業所のみの数値

2 認知症の人への支援

2-1 認知症の理解促進

認知症サポーター養成講座受講者数	指標(27~29年度)	5,000人以上
	【参考】平成22年度末	総数約6,400人
	【参考】平成26年8月末	総数11,148人
	平成27年度	1,986人/年
	平成28年度	1,385人/年
	平成29年度	2,202人/年
		★※3年間総数5,573人

認知症サポーター・タスクアップ研修受講者のうち、高知市社会福祉協議会へボランティア登録した人	指標(29年度)	150人以上
	平成27年度	33人
	平成28年度	20人
	平成29年度	18人
		※3年間総数71人

2-2 初期からの切れ目ない支援体制の充実

認知症の人の医療保護入院	指標(29年度)	170人
	平成26年4月～27年1月	168/613件(27.4%)
	平成28年4月～29年1月	187/545件(34.3%)
	平成29年4月～30年1月	207/480(43.1%)

市民とともに、多職種で認知症の人の支援について検討した回数

指標(29年度)	100回
平成27年度(平成28年1月末時点)	53回
平成28年度	10回
平成29年度	0回

認知症初期集中支援チーム数

指標(29年度)	3チーム
平成27年度	1チーム
平成28年度	2チーム
平成29年度	2チーム

2-3 介護者への支援

認知症カフェ 開催箇所数	指標(29年度)	10か所
	平成26年度末	3か所
	平成28年度末	★ 18か所
	平成29年度末	★ 23か所

3 高齢社会の健康づくり

3-1 生活習慣病の予防

69歳以下の服薬中患者割合	指標(29年)	30%
	平成27年	30.6%
	平成28年	33.6%

血圧が高いといわれたことのある40～69歳の市民が治療を受けている割合

指標(29年度)	65%以上
平成24年度	61.8%
平成29年度	59.5%

3-2 市民主体の介護予防活動への支援

「加齢による筋力低下は改善できると思う」一般高齢者	指標(29年)	65%以上
	平成26年	59.1%
	平成29年	—

※平成29年度は調査の設問内容変更により数値なし

「口の体操や口の中を清潔にすることが肺炎予防につながることを知っている」一般高齢者

指標(29年)	70%以上
平成26年	63.2%
平成29年	—

※平成29年度は調査の設問内容変更により数値なし

いきいき百歳体操 実施か所数

指標(29年度末)	370か所
平成26年度末	345か所
平成28年度末	345か所
平成29年度末	360か所

かみかみ百歳体操 実施か所数

指標(29年度末)	320か所
平成26年度末	300か所
平成28年度末	300か所
平成29年度末	★ 322か所

こうち笑顔マイレージ(健康づくり活動)登録者のうち、年40回以上参加している人の人数	指標(29年度)	4,700人
	平成27年度 ポイント還元者数	2,489人
	平成28年度 ポイント還元者数	2,776人

いきいき百歳サポーター—新規育成数	指標(29年度)	240人
	平成27年度	159人/年
	平成28年度	126人/年
	★ ※2年間総数 285人	
	平成29年度	54人
	★ ※3年間総数 339人	

3-3 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の普及

かかりつけ医がいる人の割合 一般高齢者	指標(29年度)	57%以上
	平成26年度	59.1%
	平成29年度	—

※平成29年度は調査の設問内容変更により数値なし

かかりつけ歯科医がいる人の割合 要介護認定者	指標(29年度)	61%以上
	平成26年度	55.8%
	平成29年度	—

※平成29年度は調査の設問内容変更により数値なし

かかりつけ薬局がある人の割合 一般高齢者	指標(29年度)	53%以上
	平成26年度	48.4%
	平成29年度	—

※平成29年度は調査の設問内容変更により数値なし

4 いきがいづくり

4-1 社会参加を支援するしくみづくり

「地域活動に参加している人」の割合 一般高齢者	指標(29年度)	50%以上
	平成26年度	54.7%
	平成29年度	—

※平成29年度は調査の設問内容変更により数値なし

こうち笑顔マイレージ(ボランティア活動) 登録者数	指標(29年度)	800人
	平成26年度末	208人
	平成29年度末	377人

4-2 地域での支え合い・助け合いのしくみづくり

「地域活動(趣味、健康・スポーツ、就業以外の活動)に参加している人」の割合 一般高齢者	指標(29年度)	25%以上
	平成26年度	20.3%
	平成29年度	—

※平成29年度は調査の設問内容変更により数値なし

参考資料：

2. 第6期における介護給付事業の 実績

第6期における介護給付事業の実績

(1) 給付費

単位：円

介護予防給付・介護給付	実績値(A)			計画値(B)			対計画比(A)/(B)			
	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	
(1)介護予防サービス・居宅サービス	10,903,398,859	9,371,697,591	9,075,094,806	11,176,614,000	8,529,326,000	8,308,483,000	97.6%	109.9%	109.2%	104.8%
訪問介護	1,790,295,801	1,766,593,329	1,621,866,178	1,849,140,000	1,845,935,000	1,647,948,000	96.8%	95.7%	98.4%	96.9%
訪問入浴介護	25,023,421	28,211,546	27,298,174	36,629,000	37,994,000	38,580,000	68.3%	74.3%	70.8%	71.1%
訪問看護	292,349,125	329,652,534	367,931,568	317,166,000	325,302,000	331,889,000	92.2%	101.3%	110.9%	101.6%
訪問リハビリテーション	153,763,348	152,658,175	150,414,946	159,619,000	163,590,000	166,766,000	96.3%	93.3%	90.2%	93.2%
居宅療養管理指導	132,607,467	149,602,513	162,855,873	127,006,000	152,577,000	185,651,000	104.4%	98.1%	87.7%	95.7%
通所介護	4,647,218,973	3,087,883,073	2,927,450,966	4,668,344,000	1,758,410,000	1,556,242,000	99.5%	175.6%	188.1%	133.6%
通所リハビリテーション	1,478,572,316	1,427,193,530	1,351,928,602	1,591,571,000	1,625,805,000	1,658,675,000	92.9%	87.8%	81.5%	87.3%
短期入所生活介護	507,093,559	492,277,139	499,708,705	532,209,000	544,672,000	569,546,000	95.3%	90.4%	87.7%	91.1%
短期入所療養介護(老健)	166,859,128	165,789,555	137,916,458	190,258,000	194,820,000	198,244,000	87.7%	85.1%	69.6%	80.7%
短期入所療養介護(病院等)	13,217,187	12,440,505	13,003,078	11,080,000	11,377,000	11,582,000	119.3%	109.3%	112.3%	113.6%
福祉用具貸与	634,531,152	678,927,222	728,408,855	643,643,000	691,622,000	742,046,000	98.6%	98.2%	98.2%	98.3%
特定福祉用具購入	37,124,068	34,552,658	37,438,440	32,491,000	33,180,000	33,839,000	114.3%	104.1%	110.6%	109.7%
住宅改修	97,046,073	92,038,562	86,202,724	103,042,000	105,088,000	107,156,000	94.2%	87.6%	80.4%	87.3%
特定施設入居者生活介護	927,697,241	953,877,250	962,670,239	914,416,000	1,038,954,000	1,060,319,000	101.5%	91.8%	90.8%	94.4%
(2)地域密着型介護予防サービス・地域密着型サービス	3,862,580,541	5,883,857,109	6,367,506,444	4,206,625,000	7,930,664,000	8,469,679,000	91.8%	74.2%	75.2%	78.2%
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	81,686,028	105,008,043	124,044,929	157,481,000	312,003,000	418,622,000	51.9%	33.7%	29.6%	35.0%
夜間対応型訪問介護	0	0	0	4,107,000	4,206,000	4,294,000	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型通所介護	-	1,775,140,814	1,963,051,674	0	3,155,942,000	3,412,307,000	-	56.2%	57.5%	56.9%
認知症対応型通所介護	447,260,637	475,515,171	533,203,962	464,589,000	504,355,000	504,039,000	96.3%	94.3%	105.8%	98.8%
小規模多機能型居宅介護	734,797,467	793,497,164	834,326,888	737,834,000	967,453,000	1,063,283,000	99.6%	82.0%	78.5%	85.3%
認知症対応型共同生活介護	2,165,280,863	2,201,193,457	2,296,923,265	2,218,967,000	2,282,165,000	2,334,738,000	97.6%	96.5%	98.4%	97.5%
地域密着型特定施設入居者生活介護	300,528,455	298,861,931	304,353,708	311,798,000	317,411,000	320,763,000	96.4%	94.2%	94.9%	95.1%
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	72,074,504	144,019,843	149,714,272	119,840,000	119,856,000	120,260,000	60.1%	120.2%	124.5%	101.6%
看護小規模多機能型居宅介護	60,952,587	90,620,686	161,887,746	192,009,000	267,273,000	291,373,000	31.7%	33.9%	55.6%	41.8%
(3)施設サービス	8,268,578,540	8,329,289,789	8,348,359,691	8,423,507,000	8,420,916,000	8,735,032,000	98.2%	98.9%	95.6%	97.5%
介護老人福祉施設	2,965,865,527	3,013,615,493	3,067,074,484	2,922,806,000	2,951,100,000	3,155,581,000	101.5%	102.1%	97.2%	100.2%
介護老人保健施設	1,431,815,537	1,518,431,554	1,604,960,002	1,419,350,000	1,424,119,000	1,530,879,000	100.9%	106.6%	104.8%	104.1%
介護療養型医療施設	3,870,897,476	3,797,242,742	3,676,325,205	4,081,351,000	4,045,697,000	4,048,572,000	94.8%	93.9%	90.8%	93.2%
(4)介護予防支援・居宅介護支援	1,248,264,774	1,247,623,979	1,257,671,026	1,200,023,000	1,196,043,000	1,239,706,000	104.0%	104.3%	101.4%	103.2%
合計	24,282,822,714	24,832,468,468	25,048,631,967	25,006,769,000	26,076,949,000	26,752,900,000	97.1%	95.2%	93.6%	95.3%

【実績値】厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(平成28,29年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)

【計画値】介護保険事業計画にかかる保険者からの報告値

(見える化システム実行管理画面より)

第6期における介護給付事業の実績

(2) 人数

単位：人

介護予防給付・介護給付	実績値(A)			計画値(B)			対計画比(A)/(B)			
	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	
	3カ年計									
(1)介護予防サービス・居宅サービス	245,133	234,195	217,479	248,928	222,444	209,988	98.5%	104.6%	103.6%	102.3%
訪問介護	53,140	52,073	39,525	54,060	52,656	39,936	98.3%	98.9%	99.0%	98.7%
訪問入浴介護	487	478	487	636	660	672	76.6%	72.4%	72.5%	73.8%
訪問看護	7,594	8,264	9,228	8,532	8,760	8,940	89.0%	94.3%	103.2%	95.6%
訪問リハビリテーション	3,928	4,064	4,026	3,984	4,092	4,176	98.6%	99.3%	96.4%	98.1%
居宅療養管理指導	14,160	15,991	17,515	13,188	15,888	19,332	107.4%	100.6%	90.6%	98.5%
通所介護	62,732	46,672	36,784	62,640	28,692	19,512	100.1%	157.1%	188.5%	131.9%
通所リハビリテーション	18,924	19,172	18,385	20,400	20,844	21,276	92.8%	92.0%	86.4%	90.3%
短期入所生活介護	7,605	7,530	8,005	7,968	8,160	8,556	95.4%	92.3%	93.6%	93.7%
短期入所療養介護(老健)	2,177	2,176	1,818	2,592	2,652	2,700	84.0%	82.1%	67.3%	77.7%
短期入所療養介護(病院等)	197	189	162	144	156	156	136.8%	121.2%	103.8%	120.2%
福祉用具貸与	65,551	68,918	72,732	66,180	70,488	75,156	99.0%	97.8%	96.8%	97.8%
特定福祉用具購入	1,566	1,499	1,659	1,524	1,560	1,596	102.8%	96.1%	103.9%	100.9%
住宅改修	1,545	1,447	1,420	1,596	1,632	1,656	96.8%	88.7%	85.7%	90.3%
特定施設入居者生活介護	5,527	5,722	5,733	5,484	6,204	6,324	100.8%	92.2%	90.7%	94.3%
(2)地域密着型介護予防サービス・地域密着型サービス	19,689	40,213	43,145	21,624	60,348	64,656	91.1%	69.5%	66.7%	70.3%
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	665	908	1,034	912	1,800	2,412	72.9%	50.4%	42.9%	50.9%
夜間対応型訪問介護	0	0	0	276	288	288	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地域密着型通所介護	0	19,336	21,163	0	35,448	38,244	0.0%	59.5%	55.3%	55.0%
認知症対応型通所介護	3,574	3,733	4,099	3,780	4,140	4,140	94.6%	90.2%	99.0%	94.6%
小規模多機能型居宅介護	4,180	4,383	4,460	4,404	5,772	6,336	94.9%	75.9%	70.4%	78.9%
認知症対応型共同生活介護	9,036	9,225	9,433	9,144	9,420	9,636	98.8%	97.9%	97.9%	98.2%
地域密着型特定施設入居者生活介護	1,633	1,632	1,663	1,704	1,728	1,740	95.8%	94.4%	95.6%	95.3%
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	334	571	592	564	564	564	59.2%	101.2%	105.0%	88.5%
看護小規模多機能型居宅介護	267	425	701	840	1,188	1,296	31.8%	35.8%	54.1%	41.9%
(3)施設サービス	28,108	28,604	28,495	28,932	28,980	30,252	97.2%	98.7%	94.2%	96.6%
介護老人福祉施設	12,056	12,389	12,365	12,012	12,144	12,984	100.4%	102.0%	95.2%	99.1%
介護老人保健施設	5,471	5,788	6,038	5,760	5,760	6,192	95.0%	100.5%	97.5%	97.7%
介護療養型医療施設	10,581	10,427	10,092	11,160	11,076	11,076	94.8%	94.1%	91.1%	93.4%
(4)介護予防支援・居宅介護支援	119,132	120,104	110,692	118,740	111,216	114,900	100.3%	108.0%	96.3%	101.5%
合計	412,062	423,116	399,811	418,224	422,988	419,796	98.5%	100.1%	95.2%	97.9%

【実績値】厚生労働省「介護保険事業状況報告」年報(平成28,29年度のみ「介護保険事業状況報告」月報)

【計画値】介護保険事業計画にかかる保険者からの報告値(見える化システム実行管理画面より)

第6期における介護給付事業の実績

(3) 認定者数 (第1号被保険者のみ)

単位：人

	実績値(A)				計画値(B)				対計画比(A)/(B)			
	H27	H28	H29	3か年平均	H27	H28	H29	3か年平均	H27	H28	H29	3か年平均
要支援1	2,878	2,919	2,743	2,847	2,977	3,024	3,078	3,026	96.7%	96.5%	89.1%	94.1%
要支援2	2,369	2,333	2,265	2,322	2,334	2,374	2,415	2,374	101.5%	98.3%	93.8%	97.8%
要介護1	4,258	4,326	4,457	4,347	4,018	4,103	4,199	4,107	106.0%	105.4%	106.1%	105.9%
要介護2	2,745	2,833	2,969	2,849	2,644	2,708	2,778	2,710	103.8%	104.6%	106.9%	105.1%
要介護3	2,025	2,157	2,154	2,112	2,071	2,124	2,181	2,125	97.8%	101.6%	98.8%	99.4%
要介護4	2,185	2,216	2,321	2,241	2,200	2,257	2,318	2,258	99.3%	98.2%	100.1%	99.2%
要介護5	2,159	2,104	2,076	2,113	2,342	2,405	2,467	2,405	92.2%	87.5%	84.2%	87.9%
合計	18,619	18,888	18,985	18,831	18,586	18,995	19,436	19,006	100.2%	99.4%	97.7%	99.1%

(実績値) 厚生労働省「介護保険事業状況報告」9月月報

(計画値) 介護保険事業計画にかかる保険者からの報告値

(見える化システム実行管理画面より)

